

第四十條 給水ヲ止ムルトキハ其月一ヶ月分ノ水料ヲ徵收ス

水料ニ異動ヲ生スルモ其期間内ハ之ヲ増減セサルモノトス

但第三條ノ場合ニ於テモ亦此例ニ因ル

第四十一條 計量ノ水料ハ水道部ノ見積額ヲ以テ豫納セシメ其消費高ヲ精算シ隨時之ヲ徵收ス

官衙公署等ノ建造物ニ係ル水料ハ隨時之ヲ徵收スルコトヲ得

給水ヲ廢止シタルトキハ豫納金ヲ以テ精算シ殘餘アレハ還附シ不足アレハ追徵ス

第四十二條 水料ハ徵收書ニ因リ指定ノ日限迄ニ水道部内又ハ各區役所内ニ設ケアル東京市税金取扱所ニ納付スヘシ

但船舶ニ係ル水料ハ其給水所ニ於テ徵收スルモノトス

第四十三條 水料ハ時宜ニ因リ之ヲ變更スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ少クモ三ヶ月前ニ之ヲ告示スヘシ

第六章 給水工費月賦徵收

第四十四條 給水工費ハ引用者ノ願ニ因リ月賦納付ヲ許可スルコトアルヘシ

但修繕改造等ニ係ル費用ハ此限ニアラス

第四十五條 給水工費月賦納付ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ證書ニ保證人連署ノ上區長ノ奥印ヲ受ケ差出スヘシ

但保證人ハ當市内ニ於テ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

第四十六條 給水工費月賦皆納ニ至ラサル間ハ其給水用具ヲ他ニ賣買譲與スルコトヲ得ス

第四十七條 給水工費ノ月賦徴収ハ二十四ヶ月以内トス

第四十八條 給水工費ノ月賦納付ヲ怠ルトキハ給水用具ヲ撤去スルコトアルヘシ此場合ニ於テ既収ニ係ル月賦工費ハ還付セス

第四十九條 給水工費ノ月賦皆納ニ至ラスシテ給水ヲ廢止シタルトキハ其未納ニ係ル月賦工費ハ一時ニ之ヲ徴収ス

第五十條 給水工費ノ月賦皆納ニ至ラサル内變災其他ノ事故ニ因リ給水用具ヲ亡失又ハ破壊シタルトキハ尙其未納ニ係ル工費ヲ徴収ス

第七章 違背者處分

第五十一條 左ノ事項ノ一ニ該當スル者アルトキハ給水ヲ停止スルコトアルヘシ
一 水料若クハ工費等ヲ指定期限内ニ納付セサルモノ
二 給水ヲ濫用スルモノ
三 妄リニ水道部員ノ検査ヲ拒ミ若クハ其職務執行ヲ妨クルモノ

四 前各項ノ外此規則ニ違背シタルモノ
第五十二條 前條給水ノ停止ハ違背者其事項ヲ釐正スルニアラサレハ之ヲ解除セス

●給水規則施行手續明治三十一年九月二十九日
市參事會議決第三千八百四號
東京市給水規則施行手續

第一條 給水ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ニ因リ水道部ヘ請求スヘシ

第二條 給水管及所屬具等ノ修繕改造撤去ヲ爲サント

スルトキハ第二號書式ニ因リ水道部ニ請求スヘシ
 第三條 總テ工費ノ通知ヲ受ケタル者ハ十五日以内ニ
 其工費ヲ水道部ニ納付スヘシ若シ日限内ニ工費ヲ納
 付セサルトキハ該工事ノ請求ハ無効トス
 第四條 給水引用者給水規則第十四條ノ工事ヲ施行シ
 タルトキハ水道部ノ試験、検査ヲ經テ使用スヘシ
 但試験、検査ニ要セシ費用ハ左ノ割合ニ依リ引用者
 ヨリ徴收スルモノトス(三十四年一月二
 十四日但書改正)

種別	箇數	區分		費額
		區	分	
鉛管	五拾尺	八分ノ三吋、二分ノ一吋	金拾錢	金拾錢
			金拾錢	
		八分ノ五吋、四分ノ三吋	金拾錢	金拾錢
			金拾錢	
		八分ノ七吋、一吋	金拾錢	金拾錢
			金拾錢	
八分ノ三吋、二分ノ一吋	金四錢	金四錢		
	金四錢			
八分ノ五吋、四分ノ三吋	金五錢	金五錢		
	金五錢			
八分ノ七吋、一吋	金六錢	金六錢		
	金六錢			

本柱	支柱	鉛管外套	鋳包子類	吏員出張		水栓番出張		金貳錢	金壹錢	金貳錢
				壹回	貳回	壹回	貳回			
本	本	六尺	拾個	二十町以内	四十町以内	二十町以内	四十町以内	金四拾錢	金壹錢	金貳錢
本	本	六尺	拾個	二十町以内	四十町以内	二十町以内	四十町以内	金四拾錢	金壹錢	金貳錢

區分同一ナル鉛管五十尺未滿ハ本表金額ノ割合ニ依
 リ五十尺ヲ超ユルモノハ十尺ヲ増ス毎ニ金壹錢トス
 同水栓類五個以上ハ一割十個以上ハ一割五分ヲ減ス
 鉛管外套、鋳包子類ニシテ表中ノ數ニ滿タサルモノハ
 其費額ノ割合ニ據ル其他特ニ試験、検査ヲスルモノア

ルトキハ實費ニ依ル

第五條 給水引用者給水ノ中止又ハ廢止ヲ要スルトキハ第三號書式ニ因リ水道部ニ通知シ又中止ノ場合ニ於テ給水ヲ要スルトキハ第四號書式ニ因リ請求スヘシ

第六條 給水引用者ノ人口戸數牛馬ノ頭數及引用ノ種類ニ異動ヲ生シタルトキハ第五號書式ニ因リ水道部ニ届出ツヘシ

第七條 私有ニ係ル給水管及附屬具等ヲ賣買讓與シタルトキハ第六號書式ニ因リ水道部ニ届出ツヘシ

第八條 給水引用者ノ門戸ニ掲ケシムヘキ標識ハ水道部ノ費用ヲ以テ之ヲ調製シ引用者ニ交付ス其標識ハ第七號ノ如シ

第九條 水道部員ノ携帯スヘキ證票ハ第八號ノ如シ

第十條 水道部船舶給水所ノ位置ハ設置ノ都度公告スヘシ

第十一條 船舶ニ給水ヲ受ケントスル者ハ船舶給水所ニ就キ第九號書式ノ用紙ニ水量及氏名等ヲ記入シ料金ヲ添ヘ給水ヲ請求スベシ

第十二條 共用栓使用者ハ組合ヲ設ケ總代人ヲ撰定シ第十號書式ニ因リ其住所氏名ヲ水道部ニ届出ツヘシ但實地ノ狀況ニ因リ水道部ニ於テ特ニ組合ノ區域ヲ指定スルコトアルヘシ

第十三條 共用栓使用者總代人ハ第十一號書式ニ因リ水道部ニ申出テ共用栓使用鑑札ヲ受ケ之ヲ組合内ノ使用者ニ交付スヘシ其鑑札ハ第十二號ノ如シ
共用栓使用鑑札ハ水汲ノ際必ス之ヲ其容器ニ附着セシムヘシ

第十四條 共用栓使用者總代人ニ異動アリタルトキハ
 第十三號書式ニ因リ三日以内ニ水道部ニ届出ツヘシ
 第十五條 量水器ヲ借用セントスル者ハ第十四號書式
 ノ使用證書ヲ水道部ニ差出スヘシ
 第十六條 量水器一ケ年ノ借料ハ左ノ如シ

一徑十二ミリメートル	金 參 圓
一徑十六ミリメートル	金 四 圓
一徑二十ミリメートル	金 五 圓
一徑二十五ミリメートル	金 六 圓
一徑三十ミリメートル	金 八 圓
一徑四十ミリメートル	金 拾 圓
一徑五十ミリメートル	金 拾 參 圓
一徑七十五ミリメートル	金 貳 拾 圓
一徑百ミリメートル	金 貳 拾 八 圓

一徑百五十ミリメートル 金 四 拾 貳 圓
 一徑二百ミリメートル 金 五 拾 八 圓
 一徑二百五十ミリメートル 金 七 拾 五 圓

第十七條 量水器ノ借料ハ徵收書ニ因リ水料ト同シク
 一ケ年度ヲ四期ニ分チ納付スヘシ
 但一ケ年度分ヲ一時ニ納付スルモ妨ケナシ

第十八條 量水器ヲ貸付シタルトキ及其借用ヲ止メタル
 トキニ於ケル借料徵收法ハ給水規則第三十九條及
 第四十條第一項ノ例ニ因ル

第十九條 量水器ヲ毀損シ失ヒシメタルトキハ其價值
 ニ相當スル金額ヲ一時ニ辨償セシム
 但天災ニ罹リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十條 量水器ノ試験手数料ハ徵收書ニ因リ納付ス
 ヘシ其手数料割合ハ左ノ如シ

徑十二ミリメートル	金壹圓
徑十六ミリメートル	金壹圓
徑二十ミリメートル	金貳圓
徑二十五ミリメートル	金貳圓
徑三十ミリメートル	金四圓
徑四十五ミリメートル	金四圓
徑七十五ミリメートル	金八圓
徑百五十ミリメートル	金八圓
徑二百五十ミリメートル	金拾五圓

第二十一條 給水工費ノ月賦納付ヲ願フ者ハ第十五號書式ニ因リ水道部ニ差出シ其許可ヲ得タル者ハ第十六號書式ノ證書ヲ差出スヘシ

第二十二條 第十五條ノ量水器借用證書及前條ノ給水工費借用證書ニハ當市内ニ於テ土地家屋ヲ所有スル者ヲ保證人トシテ連署セシムヘシ

但保證人ノ資格ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ本條

ニ因リ證書ノ引換ヲ爲スヘシ

第二十三條 私有消火栓ヲ設置セントスル者ハ第十七號書式ニ因リ水道部ニ請求スヘシ

第二十四條 私有消火栓設置ニ關スル工費調書交付及工費納付方手續ハ給水規則第二十一條ノ例ニ因リ其設置修繕改造又ハ撤去ニ係ル費用負擔方ハ給水規則第二十二條ノ例ニ因ル

第二十五條 私有消火栓ハ火災消防ノ時ノ外開閉スルヲ許サス

但水道部員點檢ノ爲メ出張シタルトキ開閉スルハ此限ニ在ラス

第二十六條 私有消火栓ノ使用演習ヲ爲サントスルトキハ第十八號書式ニ因リ水道部ノ承認ヲ得テ之ヲ施行シ一回毎ニ消費水料トシテ金壹圓ヲ水道部ニ納付

スヘシ

但此場合ニ於テハ水道部員ヲ立會ハシメ又演習時
間ヲ制限スルコトアルヘシ

第二十七條 私有消火栓ト雖火災ノ時ハ一般ノ消火栓
ト同シク使用セラルルコトアルヘシ此場合ニ於テハ
設置者之カ使用ヲ拒ムヲ得ス

第二十八條 第八條ノ標識及第十三條ノ共用栓使用鑑
札ヲ遺失又ハ毀損シタルトキハ其旨速ニ水道部ニ届
出テ之カ再渡ヲ請求スヘシ

第二十九條 給水ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三日以内
ニ標識并ニ鑑札ヲ水道部ニ返付スヘシ

(第一號書式) 専用共用計量給水ニ通用ス

給水請求書

一區町番地 何區何町何番地(専用共用計量給
水共之ヲ掲ク)

一人	口	何	人	(専用給水ニ限リ之ヲ掲ク)
一戸	數	何	戸	(共用給水ニ限リ之ヲ掲ク)
一牛馬數	何	頭	(専用共用給水共牛 馬アレハ之ヲ掲ク)	
一給水種別	何	栓	(専用共用計量給 水共之ヲ掲ク)	
一引用ノ種類	何	用	(計量給水ニ限リ之ヲ掲ク)	

本市給水ニ關スル諸規則遵守可致候ニ付前記ノ場所
へ給水相成度候也

何區何町何番地

年月日

請求者(共用栓總代人) 何 某印

地主又ハ家主ハ其旨ヲ寫書シ借地借家人
ハ其地主家主ノ住所氏名ヲ請求者記名ノ
次ニ記載スヘシ

東京市水道部御中

第二號書式 (専用共用計量給水ニ通用ス)

修繕(改造撤去)請求書

何區何町何番地所在專(共)計第何號

一 專用栓 (共用栓計量器)何何

右修繕(改造撤去)工事施行相成度候也

何區何町何番地

年月日

給水使用者
(共用栓總代人) 何

某印

東京市水道部御中

第三號書式

(專用共用計量給水ニ通用ス)

給水中止(廢止)通知書

何區何町何番地所在專(共)計第何號

一 專用栓 (共用栓計量器)

右來何月何日ヨリ給水中止(廢止)相成度候也

何區何町何番地

年月日

給水使用者
(共用栓總代人) 何

某印

東京市水道部御中

第四號書式

(專用共用計量給水ニ通用ス)

給水開通請求書

何區何町何番地所在專(共)計第何號

一 專用栓 (共用栓計量器)

右來何月何日ヨリ從前ノ通給水相成度候也

何區何町何番地

年月日

給水使用者
(共用栓總代人) 何

某印

東京市水道部御中

第五號書式

(專用共用計量給水ニ通用ス)

異動届書

何區何町何番地所在專(共)計第何號

一 專用栓 (共用栓計量器)

元人口

何人 改何人

元戸數 (共用栓) 何戸 改何戸
 元牛馬 何頭 改何頭
 元何何 (引用ノ種類) 改何何
 右來何月何日ヨリ異動相生シ候ニ付及御届候也
 何區何町何番地
 年月日 給水使用者 (共用栓總代人) 何 某印
 東京市水道部御中
 第六號書式 (專用共用計量給水ニ通用ス)
 給水用具賣渡讓渡届書
 何區何町何番地所在專共計第何號
 一專用栓(共用栓計量器)
 右今般何某へ賣渡讓渡候ニ付テハ自今買受讓受人ニ
 於テハ本市給水ニ關スル諸規則遵守可致候條引續給
 水相成度候也

何區何町何番地 某印
 賣渡 人 何
 何區何町何番地 某印
 譲受 人 何
 東京市水道部御中
 第七號 標 識
 真鍮板 徑三寸
 (專用栓ハ專字共用栓ハ共字計量器ハ計字トス)
 第八號 證 票
 長二寸
 小判形 表一 東京市水道部 裏 水 第何號
 木札 燧 印

第九號書式

船舶給水請求書

一 水量 何立方メートル

一 料金 金何拾何錢

右水料金納付致候ニ付給水相成度候也

船名船長

年 月 日

何

某印

東京市水道部何何船舶給水所御中

第十號書式

共用栓使用者總代人届書

何區何町何番地所在共第何號

一 共用栓

總代人 何

某

右總代人ニ選定候ニ付及御届候也

何區何町何番地

第十一號書式

東京市水道部御中

共用栓使用鑑札請求書

何區何町何番地所在共第何號

何區何町何番地

一 共用栓

共用栓使用者 何

某

右共用栓使用鑑札下付相成度候也

何區何町何番地

年 月 日

共用栓總代人 何

某印

年 月 日

共用栓使用者 何

某印

何區何町何番地

共用栓使用者 何

某印

何區何町何番地

共用栓總代人 何

某印

東京市水道部御中

第十二號

共用栓使用鑑札

長三寸五分

神共第何號

木札

東京市水道部

市二寸五分

第何號

烙印

第十三號書式

共用栓使用者總代人異動届書

何區何町何番地所在共第何號

一共用栓

前總代人
新總代人

何何

右總代人異動有之候ニ付及御届候也

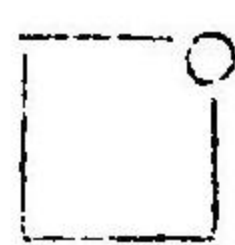
某某

何區何町何番地

東京市水道部御中

第十四號書式

量水器借用證書



一徑何ミリメートル何何量水器第何號 何 個

右正ニ借用仕候借料ノ儀ハ御規定ニ從ヒ相納メ可申

萬一本人不在又ハ怠納等ノ節ハ保證人ニ於テ辨償可

年月日

共用栓使用者 何 某印

何區何町何番地

共用栓使用者 何 某印

何區何町何番地

共用栓前總代人何 某印

何區何町何番地

共用栓新總代人何 某印

致候爲後日證書如件

何區何町何番地
借用者何 某印
年月日

何區何町何番地
保證人何 某印

東京市水道部御中

前記保證人何某ハ當區内ニ於テ土地(又ハ家屋)ヲ所
有スル者ニ有之候也

年月日 何區長何 某印

第十五號書式 (專用共用計量給水ニ通用ス)

給水工費月賦願

一工費

但何ヶ月賦納付

本市給水ニ關スル諸規則ヲ遵守可致候ニ付工費月賦

納付ノ定ヲ以テ給水工事施行相成度候也

何區何町何番地

年月日 願 人何 某印

東京市水道部御中

第十六號書式 (專用共用計量給水ニ通用ス)

工費借用證書

何區何町何番地所在專(共計)第何號

一專用栓 (共用栓計量器)

工費金何拾何圓

但何年何月ヨリ向何ヶ月賦毎月何日限リ納付

今般給水工費月賦納付ノ儀御許可相成候ニ付テハ該

工費ハ前記但書ノ通無相違相納可申萬一本人不在又

ハ怠納等ノ節ハ保證人ニ於テ辨償可致候爲後日證書

如件

何區何町何番地
借主何 某印
何區何町何番地
保 證 人 何 某印
東京市水道部御中
前記保證人何某ハ當區内ニ於テ土地又ハ家屋ヲ所
有スル者ニ有之候也
年 月 日 何 區 長 何 某印
第十七號書式
私用消火栓設置請求書
何區何町何番地何所
一私用消火栓 何ヶ所
右私用消火栓設置致度候條工事施行相成度候也
何區何町何番地

年 月 日 請 求 者 何 某印
地主又ハ家主ハ其旨ヲ肩書シ借地借家人
ハ其地主家主ノ住所氏名ヲ請求者記名ノ
次ニ記載スヘシ
東京市水道部御中
第十八號書式
私用消火栓使用演習請求書
何區何町何番地所在第何號
一私用消火栓
消費水料金壹圓
右何月何日何時ヨリ使用演習致度候ニ付テハ總テ御
指揮相受可申候因テ消費水料金を添請求候也
何區何町何番地
年 月 日 請 求 者 何 某印

東京市水道部御中

●水道給水料徴收規程及帳簿様式等

明治三十四年三月二十七日
市訓令 第二十七號

水道部
會計部
區役所

東京市水道給水料徴收規程及帳簿様式等別冊之通り改
メ明治三十四年度ヨリ施行ス

(別冊)

東京市水道給水料徴收規程

第一條 給水料ノ徴收ハ區長ニ於テ取扱フヘシ

第二條 東京市長ハ水道部長ヲシテ給水ノ種別及納人
氏名人口戸數水量等之カ査定ヲ爲シ區長ニ通達セシ
ムヘシ

第三條 東京市長ハ水道部長ヲシテ毎月初月五日迄ニ

徴收金額ヲ測定シ其總額ヲ區長ニ通達セシムヘシ

隨時徴收ニ係ルモノハ納期ヲ定メ其時時通達セシム
ヘシ

第四條 區長ハ第二條第三條ノ通達ニ依リ各納人ニ對

スル徴收金額ヲ測定シ毎月初月二十日迄ニ徴收書ヲ
送付スヘシ

隨時徴收ニ係ルモノハ納期十日以前ニ徴收書ヲ送付
スヘシ

第五條 區長ハ給水料ヲ期日內ニ納付セサルモノアル

トキハ納期後十五日以內ニ怠納報告書ヲ製シ東京市
長ニ報告スヘシ

第六條 給水料徴收ニ要スル帳簿及徴收書等書式ハ別
冊ノ通トス

第七條 本手續ニ掲クルモノノ外ハ本市歳入歳出出納規則同取扱細則ニ據ルヘシ

東京市水道給水料徴收規程別冊書式

專用栓支栓水料徴収原簿

摘要	料專	金支	支栓		人口		期別
			領收月日	發付月日	何何	何何	
							第一
							第二
							第三
							第四
							第四
							期
							開栓
							支專
							何何
							號號
給所	住所	番號	氏名	場名	町	町	
町	何	何	何	何	何	何	
番地	誰						

計量栓水料量水器使用料隨時徴収原簿

開栓 號	月	日	何	水 量 器 種 別	期 別	料	金	月	日	月	日	町	番	地	住 所	氏 名

七百七十八

四

共用栓水料徴収原簿 (市設モ同シ)

期別	戸数	料	金	摘要	開 栓 號	住 所	氏 名	町	番 地	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
																				第 一 期

七百七十九

五

共用栓水料隨時徴収原簿 (市設モ同シ)

開栓月日	閉栓月日	戸數	料別	金	發付月日	納付月日	給水場所	總代人住所氏名
何號	何號	何	何	何	何	何	何番地	何番地誰

七百八十

七百八十一

噴水水料量水器使用料徴収原簿

摘要	金額		期別	料		水	量	量	量
	領収月日	發付月日		何	何				
	何	何	第一期	何	何	何	何	何	何
			第二期	何	何	何	何	何	何
			第三期	何	何	何	何	何	何
			第四期	何	何	何	何	何	何
				開栓	閉栓	何	何	何	何
	何	何		何	何	何	何	何	何
				何	何	何	何	何	何

七

牛馬五頭以下水料徴収原簿																					
期別	頭數	料	金	摘要	開栓	第 一 期				第 二 期				第 三 期				第 四 期			
						何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
開栓		番	號	何	町	番	地	誰													

計量豫約金徴収原簿										
開栓番號	開栓月日	額三ヶ月見	水	何メートル	徴納金	發付月日	領收月日	摘要	給水場所	住所氏名

水料怠納報告書

給水種別	期別	納期	金額	事由	給水場所	住所	氏名
何何檢	何期	月日		何何	町番地	町番地	何誰

右及報告候也

年月日 何區長 何誰

市長宛

七百八十四

年度第

開檢通達書

七百八十五

開檢番號	種別	給水場所	住所	氏名	開檢月日	人口	支栓	戸數	原水材料	出放水量	摘要

何區長殿

東京市水道部長何誰團

十一

異動通達書原符

第 號 明治年月日

給種 水別	開番 控號	月日	給場 水所	舊持主			新持主			摘要
				住所	人口	戸數	氏名	住所	人口	

部長 課長 掛長 主任

印

二二

異動通達書

第 號 明治年月日

給種 水別	開番 控號	月日	給場 水所	舊持主			新持主			摘要
				住所	人口	戸數	氏名	住所	人口	

何區長 殿 東京市水道部長 印

中二二二

何區 調定額通達書原符

第 號 明治年月日

種別	年度	期	金額		事由

部長 課長 掛長 主任

印

何區 調定額通達書

第 號 明治年月日

種別	年度	期	金額		事由

東京市収入役 殿 東京市水道部長 印

印

何區 調定額通達書

第 號 明治年月日

種別	年度	期	金額		事由

東京市何區長 殿 東京市水道部長 印

中二二

第一號

領收證
明治卅年 月 日

町 番 番地

(注意書ノ内納金時限ハ各區役所執務時間變更ノ際ハ改メヘキコト)

注意
納金時限ハ午前八時ヨリ午後二時迄トス但土曜日ハ午前十一時限
期限内ニ料金を納付セザレハ給水停止セラルコトアルヘシ
此切符ハ市税金取扱所ノ捺印ヲ得ルトキハ領收証タルヘシ

徵收書

第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	專用 栓水料 第 期
一金		專用 栓水料
支 栓水料		
右明治卅 年月 日限リ當區市税金取扱所へ納付セラルヘシ		
明治卅 年月 日		區長

徵收書

正 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	專用 栓水料 第 期
一金		專用 栓水料
支 栓水料		
右納付候也		

徵收書

副 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	專用 栓水料 第 期
一金		專用 栓水料
支 栓水料		
右納付候也		

第一號

領收證
明治卅年 月 日

區 町 番地

注意
納金時限ハ午前八時ヨリ午後二時迄トス但土曜日ハ午前十一時限
期限内ニ料金を納付セザレハ給水停止セラルコトアルヘシ
此切符ハ市税金取扱所ノ捺印ヲ得ルトキハ領收証タルヘシ

徵收書

第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	計量 栓水料 第 期
一金		計量 栓水料
右明治卅 年月 日限リ當區市税金取扱所へ納付セラルヘシ		
明治卅 年月 日		區長

徵收書

正 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	計量 栓水料 第 期
一金		計量 栓水料
右納付候也		

徵收書

副 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	計量 栓水料 第 期
一金		計量 栓水料
右納付候也		

備考
豫納金徵收書ハ水道使用料ノ額ハ計量給水機納金ト記入シ以下削除
噴水ノ料徴收書ハ計量栓水料ノ額ハ計量給水機納金ト記入ス
牛馬五頭以下徴收書ハ同額ハ牛馬五頭以下水料ト記入ス
量水器使用料徴收書ハ水道使用料ノ額ハ配水工費 計量栓水料ノ額ハ量水器使用料ト記入ス

十K

第一號 領收證
第一期 徵收書
區町 番地

明治卅年 月 日

注意
納金時限ハ午前八時ヨリ午後二時迄トス但土曜日ハ午前十一時限
期限内ニ料金ヲ納付サルハ給水停止セラルコトアルヘシ
此切符ハ市税金取扱所ノ捺印ヲ得ルトキハ領收証タルヘシ

徵收書	第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	共用栓水料	第 期
一金	右明治卅年 月 日 限リ當區市税金取扱所へ納付セラルヘシ		
	明治卅年 月 日 區 長		

徵收書	正 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	共用栓水料	第 期
一金	右納付候也		

徵收書	副 第 號	人納	區 町 番地
明治卅 年度	水道使用料	共用栓水料	第 期
一金	右納付候也		

計 量 水 料 徵 收 原 簿

番外計量豫納金精算簿

水 料 收 入

月 計 簿

年 月	專用栓		支 栓		共用栓		牛 馬		計量栓		噴 水		消火栓	計	豫納金		水量器使用料		市設共用栓		摘 要	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭			円	銭	円	銭	円	銭		円

七十九十五

調定額差引計算原簿

年月日	摘要	調定額		收入額		殘額	
		円	銭	円	銭	円	銭

水料収入月計簿

調定額差引計算原簿

市 設 共 用 栓

水 徴 收 料 原 簿

開 番 栓 號	總 代 人 姓 名 住 所	給 湯 開 月 水 所 栓 日	明 治 卅 四 年 度				明 治 卅 五 年 度				摘 要		
			第 一 期		第 二 期		第 一 期		第 二 期				
			戶 數	料 金 調定 月 日	戶 數	料 金 調定 月 日	戶 數	料 金 調定 月 日	戶 數	料 金 調定 月 日			

市設共用栓水料徴收原簿

私設共用栓水 料徴收原簿

開番 栓號	總代 姓名	人 住所	給湯 水所	開月 栓日	明治卅四年度								明治卅五年度								摘要							
					第一期		第二期		第三期		第四期		第一期		第二期		第三期		第四期									
						戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	戶數	料金	調定 月日	摘要	

私設共用栓水料徴收原簿

專用栓水料徴收原簿

町

場所	治 三 十 年				治 三 十 年				治 三 十 年				治 三 十 年				摘要
	第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期	第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期	第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期	第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期	
月日	入口	料金	出口	料金	入口	料金	出口	料金	入口	料金	出口	料金	入口	料金	出口	料金	

專用栓水料徵收原簿

牛馬水料 徵收原簿

開番 松號	給水者 氏名住所	給揚 水所	開月 松日	明治卅四年度								明治卅五年度								摘要						
				第一期		第二期		第三期		第四期	第一期		第二期		第三期		第四期									
				頭數	料金	頭數	料金	頭數	料金		頭數	料金	頭數	料金	頭數	料金										

牛馬水料徵收原簿

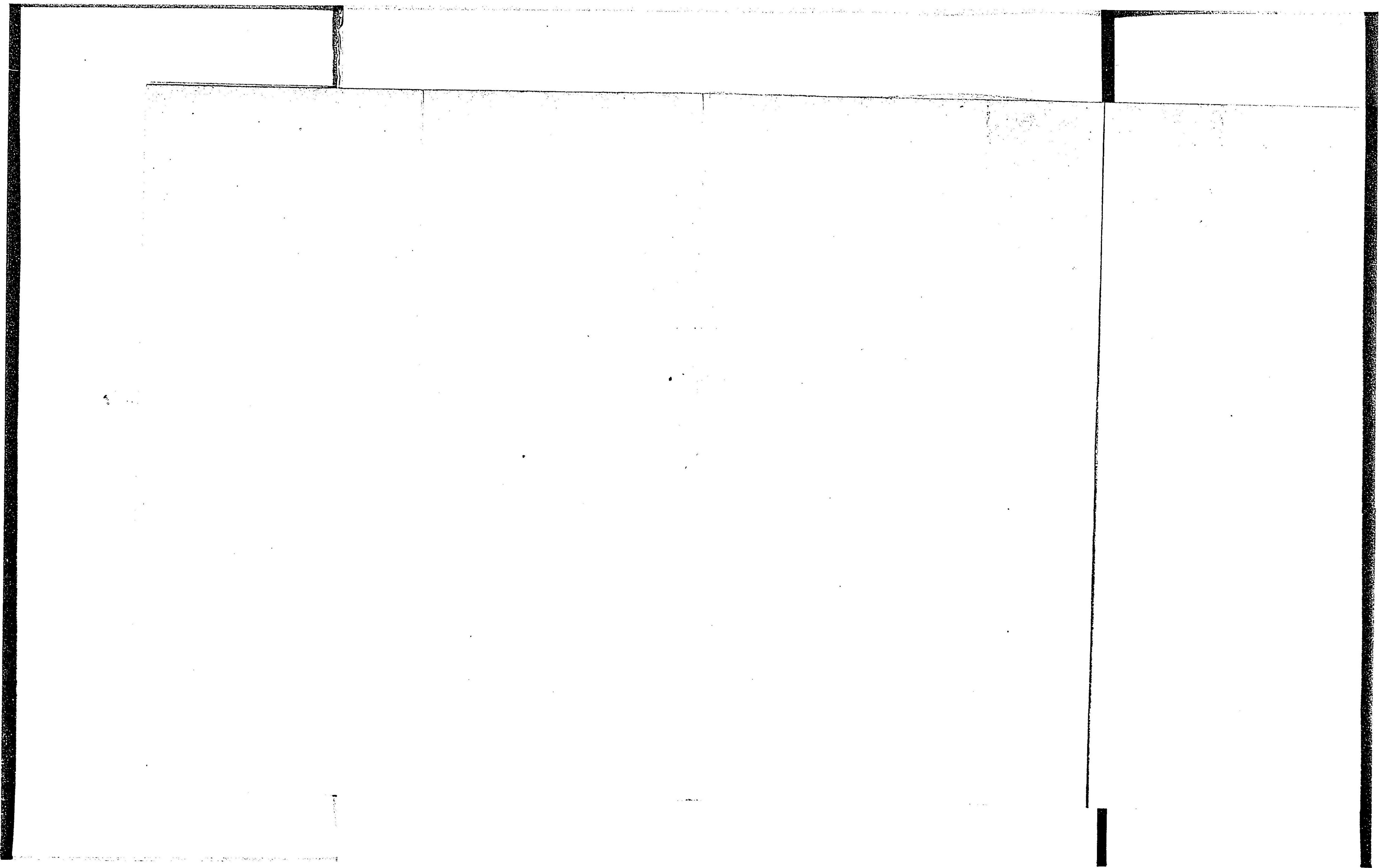
水 水 料 徵 收 原 簿

四 三 年 度												明 治 三 十 五 年 度												摘 要
期 料			第 一 期 料			第 二 期 料			第 三 期 料			第 四 期 料												
水			水			水			水			水												
計 料 金			計 料 金			計 料 金			計 料 金			計 料 金												
定 額			定 額			定 額			定 額			定 額												
耗 料 金			耗 料 金			耗 料 金			耗 料 金			耗 料 金												
月 別			月 別			月 別			月 別			月 別												
一 月 二 月 三 月			一 月 二 月 三 月			一 月 二 月 三 月			一 月 二 月 三 月			一 月 二 月 三 月												

噴 水 水 料 徴 収 原 簿

開栓 番 號	給 水 者 氏 名 住 所	給 水 場 所	開 栓 月 日	保 納 金 金 額	明 治 十 三 年 度														
					第 一 期			第 二 期			第 三 期			第 四 期					
					水 器 使 用 料	水 料	計 料 金	水 器 使 用 料	水 料	計 料 金	水 器 使 用 料	水 料	計 料 金	水 器 使 用 料	水 料	計 料 金			
					耗 料 金	調 定 月 別	計 料 金	耗 料 金	調 定 月 別	計 料 金	耗 料 金	調 定 月 別	計 料 金	耗 料 金	調 定 月 別	計 料 金	耗 料 金	調 定 月 別	計 料 金
						四 月 五 月 六 月			七 月 八 月 九 月			十 月 十 一 月 十 二 月			一 月 二 月 三 月			四 月 五 月 六 月	

噴水水料徴收原簿



計量水料徴収原簿

四 年 度				第 一 期				第 二 期				第 三 期				第 四 期				摘 要
三 期		第 四 期		第 一 期		第 二 期		第 三 期		第 四 期		第 一 期		第 二 期		第 三 期		第 四 期		
水	料	量水器使用料	水	料	量水器使用料	水	料	量水器使用料	水	料	量水器使用料	水	料	量水器使用料	水	料	量水器使用料	水	料	
計	料金	耗	料金	計	料金	耗	料金	計	料金	耗	料金	計	料金	耗	料金	計	料金	耗	料金	
月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	月	別	
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	

計 量 水 料 徴 収 原

開栓 番 號	給 水 者 氏 名 住 所		給 水 開 栓 場 所 月 日	徴 納 金 金 額 調 定 月 日	治 三 十 四 年 度				水 料				
					第 一 期		第 二 期			第 三 期		第 四 期	
					量水器使用料 耗料金	水 別 計料金 月 別	量水器使用料 耗料金	水 別 計料金 月 別		量水器使用料 耗料金	水 別 計料金 月 別	量水器使用料 耗料金	水 別 計料金 月 別
					月 別 四月 五月 六月	月 別 七月 八月 九月	月 別 十月 十一月 十二月	月 別 一月 二月 三月	月 別 四月 五月				

計 量 水 料 徵 收 原 簿

●改良水道給水種別異動届出方

明治三十二年三月四日
市告示第十六號

本市改良水道給水引用者ニシテ職業ノ變更又ハ使用水量増減ノ爲メ給水規則第二條ノ給水種別ニ異動ヲ生シタルトキハ其旨水道部へ届出ツヘシ

●材料職工使用及引水装置承認願手續

明治三十二年六月十五日
市告示第四十四號

東京市水道給水規則第十四條ニ依リ量水器ヨリ流末ニ於テ自己ノ材料職工ヲ使用シ引水ノ装置ヲ爲サントスルモノハ左ノ手續ニ依リ其承認願ヲ水道部ニ差出スヘシ

第一條 承認願ニハ左ノ圖面ヲ添へ差出スヘシ

- 一 工事施行ノ位置及其圖面(六百分ノ一)
- 二 工事設計仕様書及細分圖

●改良水道給水種別異動届出方

明治三十二年三月四日
市告示第十六號

本市改良水道給水引用者ニシテ職業ノ變更又ハ使用水量増減ノ爲メ給水規則第二條ノ給水種別ニ異動ヲ生シタルトキハ其旨水道部へ届出ツヘシ

●材料職工使用及引水装置承認手續

明治三十二年六月十五日
市告示第四十四號

東京市水道給水規則第十四條ニ依リ量水器ヨリ流末ニ於テ自己ノ材料職工ヲ使用シ引水ノ装置ヲ爲サントスルモノハ左ノ手續ニ依リ其承認願ヲ水道部ニ差出スヘシ

第一條 承認願ニハ左ノ圖面ヲ添へ差出スヘシ

一 工事施行ノ位置及其圖面(六百分ノ二)

二 工事設計仕様書及細分圖

- 三 一日ニ消費スヘキ水量ノ見込書
- 四 工事ニ従事スヘキ職工ノ住所姓名
- 第二條 工事ニ要スル材料及其目錄ハ水道部指定ノ場所ニ差出スヘシ
- 但材料ノ品位ハ水道部ニ就キ承合スヘシ
- 第三條 材料ノ試験検査ノ爲メニ生スル總テノ損失ハ出願者ノ負擔トス
- 第四條 給水管ト密接連絡スヘキ洗面器貯水器噴水器等ニシテ運搬不便ナルモノハ特ニ其現場ニ於テ試験検査ヲ爲スコトアルヘシ
- 第五條 工事中設計ヲ變更セントスルトキハ一時事業ヲ中止シ更ニ承認ヲ經テ起工スヘシ
- 第六條 水道部ニ於テ施設シタル給水管ト自己ノ材料職工ヲ以テ裝置スル水管トノ接合ハ量水器ノ流末凡

- ソ三尺ノ所ニ設置セル鉛管自在接合ノ部分ニ於テ連絡スヘシ
- 第七條 家屋ノ新築若クハ改造等ノ都合ニヨリ水道部ニ於テ施設スヘキ工事ニ先チテ流末ノ裝置ヲ爲サントスルモノハ其旨水道部ニ願出ヘシ
- 第八條 出願者ハ工事ノ著手ハ其前日落成ハ其翌日迄ニ水道部ニ届出ヘシ
- 但著手届ニハ工事日數ヲ記入スヘシ
- 第九條 工事落成ノ際ハ其各要部及接合ノ部分ヲ露出シ置キ主任技師ノ試験検査ヲ經テ埋立ツヘシ
- 第十條 材料其他ノ試験検査ニ要スル費用ハ水道部ノ指定ニ從ヒ三日以内ニ納付スヘシ
- 第十一條 此規程ニ依リテ裝置シタル物件ハ爾後給水種別ヲ變更スルトキ直ニ之ヲ費用スルヲ許サス

●水道職工試験願手續明治三十二年六月十五日
市告示第四十五號
 東京市水道給水規則第十四條ニ依リ水道部ノ承認ヲ得テ量水器ヨリ流末ニ於テ自己ノ材料職工ヲ使用シ引水ノ装置ヲ爲サントスルモノノ需用ニ應セントスル職工ハ左ノ手續ニ依リ其試験ヲ水道部ニ願出ヘシ

第一條 本市在住ノ職工ニシテ試験ヲ受ケントスルモノハ其願書ニ履歷書及試験手数料金參圓ヲ添ヘ水道部ニ差出スヘシ

第二條 試験科目ヲ分チ左ノ二項トス
 一 筆算ノ大要
 二 鉛管ノ接合法及水栓取付方等ニ關スル技術

第三條 左ノ各項ニ該當スルモノハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
 一 刑事ノ處分ヲ受ケ滿期後一ケ年ヲ經過セサル者

二 家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者
 又ハ從前身代限りノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

三 水道部職工ニシテ懲戒免職ニ處セラレタルモノ

第四條 試験ニ合格シタルモノニハ其證明狀ヲ附與スヘシ

第五條 證明狀ハ滿三ケ年間有効ノモノトス

第六條 證明狀ヲ有スル職工ニシテ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ其證明狀ヲ褫奪スルモノトス

第七條 試験ノ日時及其場所ハ水道部ヨリ出願者ニ告知スヘシ

第八條 本人ノ都合ニヨリ前條告知ノ試験日ニ出頭セサルコトアルモ水道部ハ其試験手数料ヲ返付セサルモノトス

再ヒ其試験ヲ受ケントスルモノハ更ニ第一條ノ手續ヲ履行スヘシ

第九條 一度試験ヲ受ケテ落シタルモノハ其以後六ヶ月間ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ其試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 證明狀ヲ受ケタル職工ニシテ他ノ市町村ニ轉住セントスル時ハ其證明狀ヲ水道部ニ返納スヘシ
(證明狀雛形)

第 號	證明狀
何府縣士族平民	何 某
生 年 月	生 年 月

右者本市所定ノ鉛工
技藝ニ關スル試験ニ

表)

裏)

一此證明狀ハ東京市告示第
四五號ニ依リ附與スルモ
ノトス

一此證明狀ハ表面記載ノ日
ヨリ三ヶ年間有効ノモノ
トス

一此證明狀ハ他人ニ貸與ス
ヘカラズ

一此證明狀ヲ有スルモノニ
シテ不都合ノ行爲アルト
キハ之ヲ返納スルモノト

合格シタルモノナリ

明治年月日

東京市役所

水道部

東京市

水道部

ス

一此證明狀ヲ有スルモノ轉
居シタルトキハ直ニ水道
部ニ届出ツヘシ

一他ノ市町村ニ轉住スルト
キハ此證明狀ヲ水道部ニ
返納スヘシ

●水道職工試験施行手續
明治三十二年六月十五日
市参事會議決第一萬百三十八號

東京市告示第四十五號ニ依リ職工ノ試験ヲ出願スルモノアルトキハ左ノ手續ニヨリ之ヲ施行スルモノトス

第一條 職工ノ試験ハ技師長ノ推薦ニ依リ任命セラレタル試験委員之ヲ行フ

第二條 試験委員ハ出願者アル毎ニ試験問題ヲ撰定シテ技師長ノ檢閲ヲ受ケ之ヲ執行スルモノトス

第三條 試験ハ二名以上ノ試験委員立會ノ上之ヲ行フモノトス

第四條 試験ノ結果ハ試験委員合議ノ上之ヲ定メ技師

長ノ承認ヲ經テ發表スルモノトス

第五條 前條ノ銓衡ヲ經タルモノニハ其技倆ニ應シ甲種若クハ乙種證明狀及行業鑑札ヲ水道部ノ名ニ依リテ本人ニ附與シ之ヲ簿冊ニ登錄シ置クモノトス

第六條 甲種證明狀ハ其技倆優等ニシテ流末裝置工事ノ全般ヲ引受クルニ足ルト認ムルモノニ限リ之ヲ授與シ乙種證明狀ハ裝飾的工事ニ屬セサル普通引水裝置ヲ行フニ適當ナリト認ムルモノニ之ヲ授與ス

●水道職工承認願定例外取扱内規

明治三十二年六月十五日
市參事會議決第一萬百三十八號

給水規則第十四條ニ依リ量水器ヨリ流末(量水器ヨリ)ニ於テ自己ノ材料職工ヲ使用シ引水ノ裝置ヲ爲サントシ其承認ヲ出願スルモノアルトキハ定例ノ外左ノ手續ニ依リ取扱フモノトス

第一條 承認願ニ關スル事項ハ技師長ニ於テ指定セシ

技術者三名以上ノモノ之ヲ擔任審査スルモノトス

第二條 關係書類ノ審査及材料等ノ試驗検査ハ左ノ順序ニ由リテ執行シ技師長ノ判定ヲ受クルモノトス

(一) 設計及仕様ニ就キ其適否ヲ審査シ其意見ヲ開陳スヘシ

(二) 出願者ヨリ差出シタル鉛管ハ任意ノ部分ニ於テ切断シ管ノ製作厚薄及重量等ヲ検査シ其性質最良ニシテ充分凝聚セルモノト認ムルトキハ更ニ管ノ兩端ニ鐵槌ヲ以テ「タンピラ」ヲ打込ミ管ト直角ニ輪邊ヲ形造ラシメ管ノ周圍ニ八分ノ五吋以上張出サシムルモ破裂ノ現象ヲ呈スルコトナキヤ否ヤヲ検査シ
最後ニ十五瀉壓ノ水壓試驗ヲ執行スルモノトス
(三) 水栓ノ類ハ其各部ニ就キ鑄造製作ノ如何ヲ監査シ

次テ解體試験ヲ行ヒ最後ニ又十五氣壓試験ヲ執行スルモノトス

(四) 工事施行上其水管ト密接連絡スヘキ諸器具ニ就テハ水質ヲ汚濁スル等ノコトナキヤヲ審査スルモノトス

第三條 前條第二項及第三項ニ記載スル試験検査ニ合格シタル材料ニハ任意ノ個所ニ番號ヲ刻記シ之ヲ簿冊ニ登録シ置クモノトス

第四條 技師長ヨリ指名セラレタル審査掛ニシテ其意見ヲ異ニセルトキハ各其所見ヲ技師長ニ開陳スヘシ

第五條 審査ノ手續ハ出願者アル毎ニ必ス之ヲ執行シ如何ナル場合ト雖技師長ノ指揮アルニアラサレハ之ヲ省略スルヲ得ス

●鉛工技藝證明狀ヲ有スル職工取締規則

明治三十二年六月十五日
市參事會議決第二萬百三十八號

本年市告示第四五號ノ規定ニ依リ鉛工技藝證明狀ヲ附與シタル職工ノ取締規則左ノ通り之ヲ定ム

第一條 鉛工技藝ノ甲種證明狀ヲ有スルモノハ流末裝置工事ノ全般ヲ引受クルヲ得ルト雖モ乙種證明狀ヲ

有スルモノハ單ニ普通引用ノ裝置工事ノミニ限リ洗面器噴水器等及室内裝置的ノモノヲ取扱フヲ得ス

第二條 證明狀ヲ有スルモノハ市民ノ依托ヲ受ケテ工事ヲ執行スルニ當リテハ左ノ各項ヲ遵守シ親切ヲ旨トシ誠實ニ之ヲ行フヘシ

一 工事執行中ハ必ス水道部ヨリ下付スル行業鑑札ヲ携帯スヘシ

二 工事監査ノ爲メ出張シタル水道部員ノ質問ニ對シテハ詳細ニ説明スヘシ

三 工事ハ自身必ス之ヲ執行スヘシ手傳其他ノ理由ヲ附シ證明狀ヲ有セサル職工ヲシテ工事ヲ爲サシムルコトヲ許サス

四 水道部員ノ命令ハ必ス違背スヘカラス

五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠ルヘカラス

六 常ニ品行ヲ方正ニシ亂醉粗暴其他ノ亂行アルヘカラス

第三條 懲戒ハ左ノ二種トス

一 證明狀褫奪

二 證明狀行使ノ停止

第四條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ依リ水道部之ヲ定ム

第五條 證明狀行使ノ停止ハ一ヶ月以上一ヶ年以下トシ其期間ハ證明狀及行業鑑札ヲ取上ケ期間満了ノ後

之ヲ本人ニ還付スヘシ

第六條 證明狀ヲ有スル者水道ニ關スル命令規則ヲ違奉セサルカ或ハ刑事被告トナリタル場合若クハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケタル場合等ニアリテハ其事情ノ何タルニ拘ラス其證明狀及行業鑑札ハ之ヲ褫奪ス

第七條 證明狀ヲ有スルモノ其居所ヲ轉シタルトキハ三日以内ニ水道部ニ届出ツヘシ

但東京市外ニ轉居スルモノハ證明狀及行業鑑札ヲ返上スヘシ

●市外ニ對スル給水方明治三十三年二月二十八日市告示第二十號

本市會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣及東京府參事會ノ許可ヲ受ケタル本市水道市外ニ對スル給水ノ件左ノ通定ム

市外ニ對スル給水ノ件

市外ニ於ケル官公署學校病院其他公共團體ニシテ本市水道給水ヲ引用セントスル者アルトキハ左ノ條件ヲ以テ給水スルコトアルヘシ

一 市外ニ對スル給水ハ總テ本市内ニ施行スル給水諸規則ニ準シテ給水スヘシ

二 給水ハ豫メ其一ケ年間ノ水量ヲ定メテ供給スヘシ

三 給水期限ハ五ケ年ヲ一期トシ之ヲ許可スト雖モ本市ノ都合ニ依リ隨時給水量ヲ制限シ又ハ一時之ヲ

停止シ或ハ全ク其給水ヲ廢止スルコトアルヘシ

四 給水ハ總テ計量法ニ依ルモノトス

五 給水料量ハ一立方「メートル」ニ付金五錢トス

六 特ニ敷設スル水道鐵管給水管用具ノ代金及ヒ工費並ニ試驗検査費出張員ノ旅費日當ハ引用者ノ負擔

トス

● 水道市設共用栓規則明治三十四年四月二十一日市告示第三十八

明治三十三年十月東京市告示第九十八號東京市水道市設共用栓規則左ノ通改正ス

東京市水道市設共用栓規則

第一條 本市ハ市内樞要ノ場所ニ市設共用栓ヲ設置ス

第二條 左ニ掲クル者ハ市設共用栓ヲ使用スルコトヲ得

一 給水装置ヲ爲スコト能ハサル者

二 特ニ東京市役所水道部ノ承認ヲ得タル者

三 途上ノ公衆

第三條 第二條第一號ニ該當スル者ニシテ市設共用栓ヲ使用セントスルトキハ其地主若クハ家主ニ於テ所轄區長ノ證明ヲ受ケ東京市水道部ヘ請求スヘシ

第二條 第二號ノ承認ヲ得ントスル者ハ直ニ東京市役所水道部ヘ請求スヘシ

第四條 前條ノ地主若クハ家主ハ水料ノ納付其他一切ノ責任ヲ負擔スルモノトス

第五條 第二條第一號第二號ニ該當スルモノハ一月ニ付一ノ年水料金六拾錢トシ第三號ニ該當スルモノハ水料ヲ徵收セス

第六條 本市水道給水規則中本則ニ抵触セサル條項ハ總テ之ヲ市設共用栓ニ準用ス

●市設共用栓使用該當者證明標準

明治三十三年十月二十五日
市訓令甲第五十七號

區 役 所

市設共用栓規則第三條ノ證明ヲ求ムルモノアルトキハ左ノ標準ニ依リ取扱フヘシ

證明標準

一 雇人ヲ使用セサル者

二 土地家屋ヲ所有セサル者

三 直接國稅ヲ納メサル者

四 家計収支餘裕ナキ者

五 前項ノ外水道本支水管ヨリ遠隔ノ地ニ居住シ給水引用ヲ爲シ兼タル者

●夜間給水停止執行方

明治三十三年六月十二日
市參事會議決第三千九百九十五號

鐵管擴張工事私設消火栓取付若クハ鐵管破損修繕等ニ際シ既設鐵管ノ一部ニ斷水ヲ要シ爲メニ一時給水ヲ停止スル場合ニ於テ晝間施工ノ節ハ其時時官報新聞等ニ廣告ヲ爲スヘキモ工事ノ簡易ニシテ夜間(午後十時ヨリ午前四時迄ノ内)ニ施工シ終ル分ハ前以テ最寄給水飲用者ニ相當注意ヲ爲シ別段告示等ヲ爲サス執行スルモノ

トス

●配水工費取扱方明治三十年十一月二十七日市會議決水改第二百四十四號

運轉基金ニ關スル諸支拂金并ニ受入金トモ改良費收支ト其經濟ヲ分別シ會計ヲ整理スルモノトス(三十一年九月改訂事務所ニ於テ其ヲ十一字削除)

●配水工費金取扱手續明治三十一年十月十日市會議決第千三百三十三號

●配水工費金取扱手續明治三十一年十月十日市會議決第千三百三十三號

第一條 配水工費ノ收入トハ配水工費運轉基金及配水

工費量水器使用料量水器試験手数料量水器拂下代金

量水器流末装置試験検査料職工試験手数料其他預ケ

金利子等ヲ云フ

第二條 配水工費ノ支出トハ工事用諸材料購買代價及

職工賃其他工事ニ要スル支拂金ヲ云フ

第三條 配水工費ハ特別經濟トシ市收入役ニ於テ配水

工費ノ目ヲ設ケ整理スルモノトス

第四條 配水工費及量水器試験手数料量水器拂下代金

量水器流末装置試験検査料職工試験手数料ハ水道部

長ニ於テ通知簿ヲ設ケ徴收金額及納人氏名ヲ記入シ

市收入役ニ通知スルモノトス

第五條 配水工費及量水器試験手数料量水器拂下代金

量水器流末装置試験検査料職工試験手数料ヲ納付シ

タルトキハ市收入役ハ其都度之ヲ水道部長ニ通知ス

ヘシ

第六條 量水器借用料徴收方ハ東京市水道給水料徴收

手續ニ依リ取扱フヘシ

第七條 配水工費ノ下戻ヲ要スルモノアルトキハ水道

部長ハ通知簿ヲ設ケ下戻金額及氏名ヲ記入シ市收入

役ニ通知スルモノトス

第八條

配水工費支出方其他本手續ニ掲クルモノノ外
本市歳入歳出納規則同取扱細則ニ據ルヘシ

●配水工費運轉基金ノ不足金借入方

明治三十四年二月一日
市會議決水改第三百六十三號

改良水道配水工費運轉基金ハ支出金ノ都合ニヨリ不足
ヲ告クル場合アルトキハ一時他經濟ヨリ相當ノ利子ヲ
付シ借入使用スルコトヲ得

●計量給水豫納金整理方

明治三十二年三月二十二日
市會議決第六千四百六號

計量給水豫納金ハ市雜部金ニ編入シ計量給水豫納金ノ
目ヲ設ケ整理スルモノトス

●計量給水豫納金量水器使用料種目整理方

明治三十二年三月十一日市訓令甲第九號同年三月十
七日市訓令甲第十一號同年六月六日市訓令甲第十八號

東京市水道給水料計量給水豫納金及量水器使用料ハ水

區 役 所

料徴收手續ニ依リ左ノ目ヲ設ケ整理スヘシ

一 計量給水豫納金

一 配水工費 量水器使用料

●改良水道給水料年度後收入科目設定方

明治三十三年五月十七日助役通牒
會發第六百六十號 區長宛

改良水道給水料ニシテ其年度決算期日五月十五日迄ニ
收入ノ運ヒニ至ラサルモノアルトキハ翌年度左記ノ科
目ヲ以テ徴收整理スヘキ義ト御了知相成度此段及通牒
候也

市公債償還基金

雜收入

豫知スヘカラサル收入

●給水事務ニ關スル費用配水工費ヨリ支出方

明治三十三年十二月六日
市會議決第七千七百九十六號

給水事務ニ關スル費用ハ從來改良水道費豫算内ヨリ支出シ來リシ處右ハ穩當ナラサル嫌有之ヲ以テ左ニ列記ノ費用ハ自今配水工費ヨリ支出スルモノトス

- 一 給水工事ノ設計及監督員等人力車賃
- 一 給水工事用材料試験ノ爲メ出張旅費
- 一 給水事務ニ關シ使役スル人夫賃
- 一 給水事務及工事掛員ノ使用スル備品并消耗品費
- 一 給水ニ關スル郵便電信運搬費
- 一 給水ニ關スル印刷費
- 一 給水ニ關スル臨時雇給料

第三節 上水

● 上水使用規則明治二十二年十月二十四日
市制第三十一條ニ依リ東京市上水使用規則ヲ設ケ第百

二十三條ニ依リ東京府知事ノ許可ヲ受ケ左ノ通之ヲ定ム

上水使用規則

- 第一條 玉川神田上水ヲ使用シ若クハ新ニ使用セントスル者ニシテ左ノ各項ニ係ルトキハ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第一項 上水井及瀧ヲ新設改造修繕廢止セントスルトキ
- 第二項 玉川ノ分水以樋ヲ新設改造修繕廢止セントスルトキ

- 第三項 上水井及瀧ヨリ呼井ヲ設ケントスルトキ
- 第四項 神田上水路及其助水路ノ水車ヲ新設改造修繕廢止シ又ハ之ヲ賣買讓與セントスルトキ
- 第五項 水汲場ヲ改造修繕廢止セントスルトキ
- 第六項 神田上水路及其助水路ヲ浚渫シ又ハ藻草ヲ刈取リ又ハ堰ヲ取設ケントスルトキ
- 第七項 水船ヲ用ヒ上水ノ吐水ヲ汲取リ販賣セントスルトキ
- 第二條 第一條第一項第二項第三項第四項(賣買讓與ノ場合ヲ除ク)
- 第五項ノ願書ニハ工事仕様書及其場所ノ略圖ヲ添ヘ又第六項ノ願書ニハ起功竣功ノ期日ヲ記スヘシ
- 第三條 第一條第一項第二項第三項ノ工事ハ當廳ニ於テ之ヲ施行シ其費用ハ出願者ヨリ支辨セシム
- 第四條 第一條第一項第二項第三項ノ願出ヲ爲シ許可

- ヲ受ケタル者ハ起工期日前ニ當廳ニ於テ豫定スル所ノ工費ヲ納ムヘシ
- 但工事竣功ノ後費額ニ過不足ヲ生スルコトアルトキハ其過金ハ返付シ不足金ハ追納セシム
- 第五條 第一條第七項ノ願出ヲ爲シ許可ヲ受ケタル者ハ當廳ヨリ下付スル鑑札ヲ船ノ表面見易キ所ニ釘付スヘシ
- 但鑑札ノ文字磨滅シ又ハ毀損シ又ハ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ下付ヲ請フヘシ
- 第六條 上水井水汲場及分水寸積ノ幾分(元積ニ關係セサルモ)ヲ讓與シ又ハ水船ヲ賣買讓與スル者ハ雙方連署ノ上届出ヘシ
- 但市内上水井ヲ讓與シ又ハ水船ノ賣買讓與ニ係ル届ハ區役所ヲ經由スヘシ(二十四年四月八日市規則第一號ヲ以テ但書追加)

第七條 上水吐水汲取ノ場所ハ左ノ五ヶ所トス

麴町區 錢瓶橋際

日本橋區 一石橋際

同 區 麴殼町三丁目十番地先

京橋區 比丘尼橋際

同 區 南小田原町四丁目二番地先

第八條 上水使用者樋掛又ハ井側ノ修繕ヲ怠タルトキ

ハ當廳ハ期日ヲ定メテ之カ修繕若クハ改造ヲ命スヘ

シ

第九條 本則ヲ犯ス者ハ直ニ本則ニ依ラシメ犯則ニヨ

リテ生シタル損害ヲ辨償セシム

但事情ニ由リ上水ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

●上水井所有者異動届出方明治二十四年六月二十日

區役所(下谷淺草本所)

(深川四區ヲ除ク)

地所又ハ建物ヲ賣買讓與スルトキハ其土地建物ニ屬スル上水井モ同時ニ賣買讓與ノ手續ヲ履行スヘキ管ノ處届出ヲ怠ル者往有之不都合ニ付地所建物賣買讓與ノ場合ニハ一層注意シ明治二十二年本市規則第三號上水使用規則第六條ニ據リ双方連署ノ上届出候様上水井所有者へ相達スヘシ

●上水水料賦課規則明治二十二年七月二十六日

東京市上水水料賦課規則市會ノ議決ヲ經テ左ノ通之ヲ

定ム

東京市上水水料賦課規則

第一條 神田玉川ノ兩上水ヲ飲料其他ニ供給スル種類

左ノ如シ

一 並井

二 吹井

- 三 瀧
- 四 分水
- 五 水汲場
- 六 水船
- 七 水車

第二條 水料ノ課出方法ハ其年度内ニ於テ水源水路樋
 枮等ノ改造維持其他ニ要スル費用ノ内宮内省下附金
 海軍火藥製造所出金水汲場水船水料及雜收入ヲ扣除
 シ其殘額ヲ賦課スルモノトス其負擔割合左ノ如シ
 一 引用井戸及ヒ瀧ニハ水源水路費ノ十分ノ一五六二
 七及ヒ樋枮其他ニ係ル諸費ヲ負擔セシム其水料ハ
 並井一個ヲ以テ標準トシ吹井一個ハ其二倍瀧一個
 ハ其十倍ヲ賦課ス
 一 分水ニハ水源水路費ノ十分ノ八四三七三ヲ負擔セ

シム其水料ハ神田上水路ニ於テハ灌漑地ノ反別ニ
 依リ玉川上水路ニ於テハ分水口ノ寸積ニ依リ之ヲ
 賦課ス
 但飲料專用ノ分水ハ普通分水ノ三倍以内ヲ増課
 ス
 一 分水ニ屬スル並井ハ市内並井ノ十分七以内ヲ賦課
 ス
 一 水汲場一ヶ所并水船一艘ノ水料ハ並井水料六分ノ
 一以内ヲ賦課ス
 一 水車ノ水料ハ一斗張枮一本(神田上水ハ田反別ニ
 九畝以上ハ三斗〇七六五川
 一斗ハ寸積一坪一合ハ八勺七八五ヲ以テ一斗割枮
 一本ト算シ挽臼一個ハ八勺七八五ヲ以テ一斗割枮
 算ス)ヲ以テ標準トシ各其水源水路費ノ田反別割又
 ハ寸積割ヲ賦課ス

第三條 水料ノ徵收方ハ毎年四月十月ノ兩度ニ於テ其

半年度分ヲ前收ス

但會計法規ニ據リ前金拂ヲ爲スコトヲ得サル官廳

ニ對シテハ其年十月及翌年四月ニ於テ徵收ス(三十二年

七月十七日市告示第四

十八號ヲ以テ本條改正)

第四條 新設ニ係ル井戸其他ノ水料ハ工事竣功ノ翌月

ヨリ徵收シ又廢止スル者アルトキハ已ニ徵收シタル

水料ハ月割ヲ以テ其翌月分ヨリノ水料ニ相當スル前

收金ヲ還附スヘシ

第五條 水源水路又ハ樋樹等ノ改造修繕ヲ要スル爲メ

一時水量ヲ減シ若クハ全ク給水ヲ停止スルコトアル

モ水料ハ減額セス

第六條 水料ヲ滯納シタルトキハ其給水ヲ廢止ス

● 上水水料徵收方明治二十三年九月十五日
市告示第六十五號

東京市上水水料徵收方ノ件市會ノ議決ヲ經テ左ノ通之

ヲ定ム

東京市上水水料賦課規則第二條ハ改良上水供給迄之ヲ

施行セス水料ハ明治二十二年度ノ金額ニ因リ之ヲ徵收

ス

● 古樋拂下入札人心得明治二十二年十二月
市會議決

古樋拂下入札人心得

第一條 水道古樋ノ拂下ヲ望ム者ハ拂下樋調査及現品

熟覽ノ上入札スヘシ

第二條 開札ノ節不參又ハ猥ニ散席スル者ハ入札ノ數

ニ入ルコトヲ許サス

第三條 入札金高不相當ト認ムル時ハ之ヲ取消スコト

アルヘシ

第四條 入札人落札ノ達ヲ受ケタルトキハ即時受書ヲ

出シ金員ヲ完納スヘシ

但此場合ニ於テハ入札ノ取消ヲ乞フコトヲ許サス
第五條 落札金員ヲ即時ニ完納スル能ハサル者ハ入札
スルコトヲ許サス

第六條 落札人金員ヲ完納スルノ後拂下品ノ不足又ハ
毀損等ヲ生シタル旨ヲ以テ其損害ヲ請求スルモ之ヲ
受理セサルヘシ

第七條 開札後入札ノ取消ヲ乞フトキハ違約ヨリ生ス
ル損害賠償金トシテ即時入札金高十分ノ一ヲ納ムヘ
シ

第八條 落札人ハ當廳土木課ニ於テ指定スル日限以内
ニ現品ヲ引取り跡掃除ヲ爲スヘシ

第四節 工事

●水道改良工事及材料入札請負規則

明治二十六年十月二十五日
市告示第六十六號

水道改良工事及材料入札請負規則市會ノ議決ヲ經テ左
ノ通之ヲ定ム

水道改良工事及材料入札請負規則

第一條 工事及材料請負入札人ハ不動産ヲ有シ二箇年
以來所得稅ヲ納ムル者ニ限ル

但工事ニ就テハ本文制限ノ外尙ホ二箇年以來土木
事業ニ従事セシモノタルヲ要ス

第二條 請負金ハ工事ノ大小若クハ材料ノ多少ニ依リ
二十回以下ニ區分シ其出來形若クハ納付高ニ應シ下
渡スコトアルヘシ

第三條 認可ヲ經スシテ著手又ハ竣功若クハ皆納ノ期日ヲ遷延スルトキハ違約ニ係ル損害賠償金トシテ一日ニ付工事ニ就テハ請負金高百分ノ一材料供給ニ就テハ不納物品ニ對スル請負金高百分ノ二ノ割合ヲ以テ遷延シタル日數ニ乘シ算出セル金額ヲ納メシム可シ

第四條 請負人工事經營若クハ材料納付方ニ付不正ノ所爲アルカ又ハ手配不整頓ニシテ到底期限内ニ竣功若クハ完納シ能ハスト認ムルトキハ身元保證物ヲ沒收シ請負ヲ解クコトアルヘシ

第五條 明治二十二年七月東京市告示第十六號及明治二十六年九月東京市告示第六十號工事請負入札規則ハ前各條ニ抵觸セサルモノニ限り總テ之ヲ準用ス

● 水道工事直備職工人夫使役規則明治二十八年三月市令

第一條 本工事ニ於テ使役スヘキ職工人夫ハ其身體強壯ナル者ニシテ年齡ハ凡ソ二十歳以上四十五歳以下トシ充分其勞働ニ耐ヘ得ヘキモノタル可シ

但其年齡ハ以上ノ如ク定ムルト雖トモ充分其勞働ニ耐ヘ得ルカ或ハ特種ノ技能アルモノヲ要スル場合ハ此限ニアラス

第二條 直備職工人夫差出人(職工頭)ハ十名乃至二十名ニ對シ小頭一人ヲ置キ掛員ノ指揮ヲ傳達シ又ハ命令ニ從ヒ職工人夫ヲ誘導シテ共ニ勞働セシムヘシ而シテ職工頭若クハ人夫頭ハ始終現場詰切掛員ノ命令ニヨリ其職工人夫ノ取締ヲナスヘシ又其從事セシム可キ事業ト職工人夫ノ員數ニ依リ甲乙混シテ使役スルコトアルヘキモ掛員ノ指定スル小頭ノ命令ヲ拒ムヲ得ス

但掛員ノ見込ニヨリテハ職工人夫ノ數十名以内ト
 雖トモ小頭ヲ附シ或ハ之ヲ置カサルコトアル可シ
 第三條 職工人夫ノ労働時間ハ毎日正味九時間トス
 第四條 職工人夫ノ休憩時間ハ日ノ長短又ハ季候ノ如
 何ニヨリ其時時揭示スヘシト雖モ毎日午前午後ニ各
 一回及ヒ晝餐時ノ三回トシ労働時間ハ此外タル可シ
 第五條 職工人夫ハ總テ毎日其就業時間ニ至リ直ニ就
 業シ得ル様注意スヘシ
 第六條 職工人夫ハ毎朝就業ノ時間十分前ニ於テ總テ
 掛員ノ面前ニ整列セシメ其著到ヲ改メ一人毎日番號
 札ヲ交付シ以テ當日雇入ノ證票トス而シテ終業後モ
 亦同一ノ手續ニ據リ其人員ヲ改メ番號札ヲ返納セシ
 ム若シ此札ニ不足ヲ生スルトキハ其不足ニ對シテハ
 賃金ノ支拂ヲナササル可シ

第七條 人員検査ハ前條ノ外臨時之ヲ行フコトアルヘ
 シ此場合ニ於テ若シ其人員ニ不足アルトキハ亦前條
 ニ準スルモノトス
 第八條 直備職工人夫ハ左記ノ範圍内ニ於テ各自ノ技
 備體格等ニ應シテ其賃金ヲ定ム(三十三年十月二十六日市
 會決議第八千四百六
 十一號ヲ以
 テ本條改正)
 但辭令書ヲ受領セル職工及ヒ工夫ハ從來ノ規定ニ
 據ル

一人夫頭	一日ノ賃金	六拾錢以内
一同小頭		五拾錢以内
一人夫男		五拾錢以内
一同女		貳拾五錢以内
一煉瓦工		九拾五錢以内
一石工		壹圓以内

一 大工 同

九十五錢以内

一 左官 同

八拾五錢以内

一 鍛冶職 同

壹圓以内

一 植木職 同

六拾錢以内

第九條 直備職工人夫ニシテ數十日間缺勤セス其勞働
衆ニ超ユルモノハ其賃金ヲ増給スルコトアル可シ

第十條 職工人夫ニシテ一度増給セシモノト雖モ其爾
後出精セサルモノハ掛員ノ相當ト認ムル賃金ニ引下

クヘシ

第十一條 職工人夫ハ其從事セシムヘキ事業ノ如何ニ

ヨリ或ル時限内臨時其賃金ヲ増給スルコトアルヘシ

第十二條 職工人夫ノ勞働時間ハ第三條ノ如ク定ムル

ト雖モ工事ノ都合ニヨリ早出居殘ヲ命スルコトアル
可シ

此場合ニ於テハ一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割
當以テ其使役セシ時間ニ應シテ支拂フヘシ

但夜間降雨又ハ終日水中或ハ泥濘中ニ勞働セシム

ル等ノ如キ非常ノ場合ニハ本條ノ外其賃金ニ三割

以内ノ増給支拂ヲナスコトアルヘシ

第十三條 左ノ場合ニ該當スルモノノ賃金支拂ハ前條

ト同シク其一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割當其

就業ノ時間ニ應シテ計算スルモノトス

一 第二十一條ニ該當スルモノ

一 疾病其他本人ノ都合ニヨリ終業時間前ニ退場スル

モノ

第十四條 工事上ノ都合ト掛員ノ見込ニヨリ其事業ヲ

人頭ニ分割シテ施行セシムルコトアルヘシ此場合ニ

於テハ其割當ヲ受ケタル事業ヲ成就セシメサル中ハ

第二十條 各職工人夫ハ貸與品ヲ使用シタル場合ニ於テハ終業後二十分以内ニ諸器具器械等ヲ取廻メ返納スヘシ若シ其員數ニ不足ヲ生スルカ或ハ事業中其他故意ニ破損セシメタル場合ニ於テ其不足ノ分ハ三日以内ニ現品ヲ以テ辨償セシメ破損ノ分ハ相當ノ修理ヲ命ス若シ修繕ヲ爲シ能ハサル程ニ破損セシメタルトキハ不足ノ場合ト同シク現品ヲ以テ償却ヲ命スヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ其代價ヲ直備職工人夫ハ其總賃金ノ内ヨリ引去リ又單獨直備ニ採用サレタル職工人夫ニアリテハ其賃金ノ支拂ヲ止メ本文ノ手續ヲ了リタル後支拂ヲ爲スヘシ

第二十一條 職工人夫ニシテ其勞働ニ耐ヘサルモノ若クハ怠惰ナルモノ又ハ事業中他ノ人夫ノ働作或ハ工事ニ妨害ヲ爲スモノ若クハ爲スト認ムルモノ或ハ

掛員ノ指揮命令ニ背戻シタルモノハ直チニ退場ヲ命スヘシ

第二十二條 職工頭若クハ人夫頭ニシテ左ノ各項ニ背戻スルモノハ直チニ使役ヲ止ム

- 一 職工頭若クハ人夫頭ノ職務ヲ盡ササルモノ
- 一 不適當ノ職工人夫若クハ小頭ヲ差出シ引換ヲ命スルモ其命ニ從ハサルモノ若クハ引換ユルモ前同等ノモノヲ差出シ改メサルモノ

一掛員ノ命スル職工人夫ヲ差出シ得サルモノ

第二十三條 掛員ヨリ特ニ指命シタル職工人夫ハ其差出人ニ於テ自由ニ引換ユルヲ許サス

第二十四條 事業中傳染病又ハ流行病等ニ罹リタルモノアルトキハ差出人ハ速ニ相當ノ手續ヲナシ場外ニ立退カシムヘシ且平癒後ト雖モ相當ノ手續ヲ經タル

後ニアラサレハ現場ニ差出スコトヲ許サス

●水道直雇職工人夫募集方法明治二十八年三月
市参事會議決

第一 「水道改良事務所」ハ其所要ニ應シ充分信用シ得ルモノヨリ指名シテ職工頭及人夫頭ヲ撰定スルモノトス

第二 本工事ニ要スル職工人夫ハ前項ノ職工頭及人夫頭ニ命シテ差出サシムルモノトス

●水道直雇職工人夫賃金支拂手續明治二十八年三月
市参事會議決

第一 職工人夫賃金ノ支拂期ヲ分ツテ週拂及ヒ月拂ノ二種トス

第二 直雇職工頭及人夫頭ハ其賃金ノ支拂ヲ受ルノ證トシテ適宜見認帳ヲ製シ其日日終業後引揚タル番號札ノ數ヲ照シテ現場主任者及ヒ事務員ノ認印ヲ受ケ置クヘシ

但其見認帳ハ甲乙二冊ヲ製シ賃金請求ノ都度交互使用スルモノトス

●水道鐵管敷設跡道路修繕方

明治三十一年十二月二十一日
市参事會議決第二萬六千二百二號

水道改良鐵管敷設跡及消火栓敷設周圍等道路修繕方ノ義ハ從來水道部ニ於テ敷設済ノ箇所ニ對シ順次施行シ來リ居候處既往ノ成績上鐵管敷設跡而已一部ノ修繕ヲ加ヘ砂利敷ヲ爲スハ道路保存上且ツ經濟上不得策ニ付自今敷設跡道路修繕方ハ一切土木部ニ於テ施行スルモノトス其施行スヘキ間敷工事ノ分界及費用等左ノ如シ

一 鐵管敷設未済之部分ニ於ケル道路修繕ハ其延長約四萬五千九百餘間消火栓室千〇七十六個ナリ

一 敷設跡ハ敷設掛員ニ於テ跡埋ヲ爲スニ止メ其以後ニ係ル落込或ハ不陸直シ砂利敷等ハ土木部ニ於テ施行

ノ事

一敷設跡埋後殘土ヲ生スルトキハ該殘土取片付ハ土木部ニ於テ施行ノ事

(以下省略)

●鐵管敷設跡道路修繕工事施行方

明治三十三年五月二十九日
市議會會議決第四千二百二十九號

水道鐵管擴張敷設工事漸次着手ニ付テハ右敷設跡道路復舊修理方ノ義ハ從來通り土木部ニ於テ施行スルモノトシ其工事ノ分界及費用支出方等ニ關シテハ左ノ通り定ムルモノトス

一水道部ニ於テハ鐵管敷設ニ先チ其場所及豫定間敷等ヲ土木部ニ通知スル事

一土木部ハ右通知ニヨリ敷設濟箇所ヨリ漸次跡修繕施行ノ事

一鐵管敷設跡ハ水道部ニ於テ地盤迄埋立突岡メヲナシ其以後ニ係ル砂利敷落込或ハ不陸直シ等ハ土木部ニ於テ施行ノ事

一敷設跡殘土ヲ生スルトキハ取片付ハ土木部ニ於テ施行ノ事

一右ニ要スル道路修繕費ハ鐵管敷設長每壹間ニ付金貳拾五錢六厘ノ割合ヲ以テ三ヶ月毎ニ精算取纏メ水道改良費ヨリ土木費相當科目へ戻入ヲナスモノトス

●給水工事施行跡道路修繕方

明治三十二年十月二十日
市議會會議決第二萬四千六百十二號

改良水道給水工事取付跡道路修繕ノ儀ハ從來水道部ニ於テ悉皆施行セシ處再三落込等ヲ生シ其修理ノ爲メ一方ナラサル手數ヲ要シ且道路保存上極メテ不得策ナルヲ以テ自今水道部ニ於テハ一時跡埋後突岡メ砂利敷ヲ

爲スニ止メ其後ノ修繕ハ一切土木部ニ於テ施行スルコトトシ工事ノ分界及費用等ニ關シテハ左ノ通り取扱フモノトス

一給水工事ヲ施行シ跡修繕ノ箇所ハ其町番地及間數ヲ一定ノ方式ニヨリ水道部ヨリ土木部へ通知スル事
一水道部ニ於テハ工事施行跡埋後突固メ砂利敷ヲ爲スニ止メ其以後ニ係ル落込修繕或ハ不陸直シ等ハ一切土木部ニ於テ施行スル事

但公道私道ヲ通シ水道部ノ通知間數ヨリ施行ノ事一右ニ要スル修繕費ハ毎月未通知済間數ニ對シ一間ニ付金四錢五厘ノ割合ヲ以テ算出シ半年度毎ニ取纏メノ上配水工費ヨリ支出シ土木費道路費修繕費へ組入ルルモノトス

●割栗石改築道路給水工事施行跡修理方

明治三十二年十二月十五日
市議會議決第一萬五千九百五十八號

改良水道給水工事跡道路修理ハ從來悉皆水道部ニ於テ施行ノ處割栗石改築道路ハ特ニ修理方ニ手數ヲ要シ且ッ道路保存上不得策ノ義有之ヲ以テ自今水道部ニ於テハ跡埋突固メヲナスニ止メ其他ノ修理ハ一切土木部ニ於テ施行スルコトトシ工事ノ分界及費用等ニ關シテハ左ノ通り取扱フモノトス

一割栗石改築道路ハ給水工事施行ノ箇所ハ其區町番地及堀鑿間數ヲ一定ノ方式ニヨリ工事着手三日以前ニ水道部ヨリ土木部へ通知スル事
一水道部ハ工事施行後直ニ別項仕様書ニヨリ跡埋ヲ爲ス事
一土木部ハ水道部ニ於テ工事施行後三日以内ニ全體修理ヲ爲シ了ル事

一前項修理済以後ニ依ル落込修繕或ハ不陸直シ等ハ一切土木部ニ於テ施行スル事

一右ニ要スル修理費ハ毎月未通知済箇所數ニ對シ一箇所ニ付金壹圓四拾錢ノ割合ヲ以テ算出シ半年度毎ニ取廻メノ上配水工費ヨリ支出シ土木費道路費修繕費ヘ組入ルルモノトス

割栗石改築道路鉛管布設跡埋仕様書

一路面掘鑿ノ節其衣土厚五寸以上其下層割栗石及下土等順次掘揚ケ混同セサル様各別ニ積置キノ事

一鉛管布設跡埋方ハ前取除キノ下土埋立其上層ハ衣土三寸以上敷均シ地盤ニ不陸ナキ様敷均シノ事

但下土衣土ハ各層埋立敷均毎ニ木蛸ニテ突堅ムル事

一埋立ニ際シ乾燥甚シキ時ハ適宜水ヲ注ク事

一殘土ハ土木部土木課員ト協議シ最寄ヘ取片付ヲ爲ス事

割栗石改築道路水道鉛管布設跡復舊費
一金壹圓四拾錢八厘 壹箇所費用

内 譯

種目	數量	單價	計	摘	要
八分日節 玉川砂利	五勺	七 ^四 七〇〇	三 ^四 八五	平均長三間巾三尺厚貳寸 敷入	
石張人夫	壹人		四五〇	壹箇所仕上	
土方人夫	壹人		四〇〇	地形突堅メ衣土敷均シ砂利敷均シ 均シ突堅メ壹箇所分	
砂利運送	五勺	三 ^四 五〇	二 ^七 三	丁敷均十五丁ノ見込立坪三付 人夫七人五分但一人拾錢ノ割	
計			一四〇八		

●大玉砂利修繕道路給水工事跡復舊方

明治三十三年十二月十二日
市長決列水費第三千九百五十一號

給水工事跡道路復舊ノ義ハ水道部ニテ施行シ割栗石改築道路ニ限リ土木部ニ於テ施行シ來リ候處今般土木部ニ於テ大玉砂利道路修繕施行ニ付テハ右道路へ給水工事施行ノ際ハ割栗石改築道路同様土木部ニ於テ復舊方施行スルモノトシ其工費ハ左記ノ通り一箇所ニ付金八拾七錢四厘宛三ヶ月毎ニ取廻メ配水工費ヨリ支出シ土木費へ戻入ヲ爲スモノトス

大玉砂利修繕道路へ水道鉛管敷設跡道路復舊費
一金八拾七錢四厘
壹ヶ所費用

平均長三間巾貳尺此面坪壹間

内譯

種目	數量	單價	計	摘要
荒木田土 一寸目節以下 砂板キ砂利	壹勺叁才	九七五〇	三三三	平壹坪ノ處厚貳寸敷入
	四五〇〇		〇七七	平壹坪ノ處厚均壹寸

土方人夫	壹人	四〇〇	四〇〇
運送		一五〇〇	〇七五
計		八七四	砂利荒木田土五勺運搬

●民有道路へ水道改良用鐵管敷設出願方

明治二十八年七月一日
市訓令第八十九號

區 役 所

公衆ノ用ニ供スル民有道路へ市區改正ノ設計ニ係ル水道改良用鐵管ノ敷設ヲ出願スルモノアルトキハ其筋ノ認許ヲ經テ願意ヲ採用スル儀可有之候條右ノ場合ニ於テハ豫メ當廳「水道改良事務所」ニ就キ出願ノ手續承合候様地主へ示達スヘシ

(參照)

●市水道設計 明治二十三年七月
府告示第五十號
東京市區改正事業ノ内水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス
東京市水道設計

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ
百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ
以テ標準トス

淨水工場ヲ南豊島郡淀橋町ニ置キ從來ノ水渠ヲ用ヒ
テ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ清淨ニス
(二十四年十二月十四日市告示第四十七號ヲ以テ
三ヶ村ヲ改メ但書ヲ追加ス)

但淀橋町淨水工場ヨリ以西二千餘間ハ新タニ水渠
ヲ開鑿ス

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容
ルル爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇
ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ
見ル場合ニ於テハ之ヲ増設スルモノトス

但沈澱法ハ沈澄池ノ一端ニ於テ池底ヨリ水ヲ引キ
入ルルト同時ニ其他端ニ於テ水面ニ接シタル處ヨ
リ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ濁濁甚シキ場合ニ於テ
ハ十二時間之ヲ静止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ毎二十四時間十尺ト爲シ面積
六萬平方尺ノモノ十二個ヲ設ケ内二個ヲ豫備ニ充ツ
尙他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ増設スルモノトス
海面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水
區域ニ分チ淨水工場内ニ唧筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ
高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ
水ヲ本郷芝ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及唧筒機ヲ
備ヘテ低地ノ給水工場トス(二十四年十二月十四日市告示第
四十七號ヲ以テ芝ノ麻布及小石川近
傍ニ改ム)

淨水貯池ハ人口百五十萬ニ對スル十二時間分ノ水量

ヲ容ルルモノトシ各給水工場ニ二箇宛ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

唧筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其内一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス其機械力ハ總計千五百馬力ナリ

但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ定度トス

高地區域ニ於テハ淀橋町給水工場ヨリ唧筒ヲ以テ直ニ卅六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷赤坂麻布ノ全區及芝麴町牛込小石川本郷神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於ケル濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ送水シ此貯池ヨリ唧筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋京橋下谷淺草本所深川ノ全區及芝麴町牛込小石川本郷神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ直徑四

十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計五十九哩四八支管ハ内徑四吋以上十二吋以下ニシテ其延長ハ凡ソ合計三百五十哩トス給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及其消費量ヲ量ルノ裝置ヲナスモノトス

但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ消火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニシテ合計四千四百五十個其他消火兼共用栓七十箇公園及街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池濾水池淨水池等ノ位置廣狹消火栓共用栓ノ數及本支管ノ位置大小哩數等ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

第五節 物品並給與

●「水道改良事務所」物品出納規定

明治二十五年四月一日
市會決議

「水道改良事務所」物品出納規定

第一條 此規定ニ於テ物品ト稱スルハ「水道改良事務所」ニ屬スル器具器械其他ノ備品及消耗品ヲ云フ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二ヶ月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ハ現ニ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計主任トス

第五條 「事務所」及各工場ニハ物品取扱主任者ヲ定メ置キ需用品出納一切ノ責ニ任セシム

第六條 凡ソ貯藏ノ物品ハ物品會計主任其他共用ニ係ル物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第七條 前條保管者ハ其故意怠惰ニ依リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ハ少ナクモ毎年一回若クハ物品會計主任交替ノ際検査ヲナシ物品會計主任及立會人ハ目錄ト現在品ト照合シ其圖書ヲ作り之ニ署名スヘシ

第九條 物品ノ交付ヲ請求スルトキハ請求用紙ニ品目數量及需用ノ事由ヲ詳記シ物品會計主任ニ請求スヘシ

第十條 前條物品ヲ交付スルトキハ物品取扱主任ノ證券ヲ徴スヘシ

第十一條 消耗品ノ内共用ニ屬スル薪炭油ノ如キ日得支消スル物品ハ需用概算高ヲ以テ假渡ヲナスコトヲ得

第十二條 使用ノ物品不用ニ屬スルトキハ其返納書ヲ添ヘ速ニ返納スヘシ

第十三條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ

備品出納簿

同内譯簿

消耗品出納簿

同内譯簿

以上帳簿ハ物品會計主任ニ屬ス

備品現在簿

同内譯簿

消耗品受拂簿

以上帳簿ハ物品取扱主任ニ屬ス

第十四條 物品會計主任ハ物品購入其他ノ事由ニ依リ

現品ヲ接受シタルトキハ之ヲ證券類ニ照シ調査納入シ帳簿ニ登記スヘシ

第十五條 物品取扱主任ハ備品ヲ受入タルトキ備品現在簿ニ登記スルモノトス其返納シタルトキモ亦同シ

第十六條 前條受入タル備品ハ各自専用用品ト共用用品ト

ヲ區分シ備品内譯簿ニ登記シ専用用品ハ專用者該簿ニ捺印スルモノトス其返納シタルトキモ亦同シ

第十七條 物品取扱主任ハ消耗品ヲ受入タルトキ消耗

品受拂簿ノ内受ノ區畫ニ登記シ各自ニ交付シタルトキハ拂ノ區畫ニ登記スヘシ

●水道改良工事用材料出納規定明治二十六年七月

第一條 此規定ニ於テ材料ト稱スルハ水道改良工事用ニ屬スル煉瓦セメント木石材鐵管其他工事ニ使用ス

ル諸品ヲ云フ

- 第二條 材料ノ會計年度ハ物品出納規程第二條ニ同シ
- 第三條 材料ノ受入ハ第六條ノ検査ヲ了シ納付ノ確定シタル月其仕拂ハ之ヲ工事ニ使用シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條 材料ノ使用及其計算整理ノ爲メ材料主任ヲ置キ時時各工場ニ就テ現品及帳簿ノ検査ヲ爲サシムルモノトス
- 第五條 事務所及工場ニ材料掛ヲ置キ諸材料受拂一切ノ責ニ任セシム
- 第六條 材料納人ヨリ事務所及工場ニ材料ヲ納付スルトキハ材料掛及主任技師若クハ其指定ノ掛員立會檢査ノ上契約書命令書示方書ニ依リ授受スヘシ
- 第七條 材料納人ニ於テ悉皆納付ヲ了リタルトキハ納

- 期日數皆納期日ヲ記載シタル材料掛ノ證明書ニ納人ヨリ差出シタル代價請求書領收證書精算内譯書ヲ添ヘ報告スヘシ
- 代價内渡ヲ要スルトキモ亦前項ニ準ス
- 第八條 材料納人ニ於テ契約書命令書示方書ニ違背シ或ハ被免ヲ乞フコトアルトキハ其理由ヲ詳記シ之カ處分ノ手續ヲナスヘシ
- 第九條 材料掛ハ現品ノ出納及其計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ
 - 諸材料受拂原簿
 - 諸材料現場受拂原簿
- 第十條 各工場現場主任ハ材料受拂ヲ詳明スルカ爲メ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ
 - 諸材料受拂簿

- 第十一條 各現場主任ニ於テ材料ノ交付ヲ請求スルトキハ請求書用紙ニ品名數量及需用ノ事由ヲ詳記シ請求書欄内ヘ主任捺印シテ材料掛ヘ請求スヘシ
- 第十二條 材料掛ハ前條材料ノ請求アリタルトキハ現品ヲ交付シ材料受拂原簿ニ登記シタル後其請求書ノ備考ニ材料ノ種類ヲ記入シテ之ヲ現場主任ニ回付スヘシ
- 第十三條 現場主任ハ前條請求書ノ回付ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ登記シ請求書欄内現品領收ノ區畫ニ捺印シテ材料掛ヘ返付スヘシ
- 第十四條 材料掛ハ前條請求書ノ返付ヲ受ケタルトキハ現場受拂原簿ニ登記スヘシ
- 第十五條 現場主任ハ材料ヲ工事ニ使用シタル數量ヲ日日受拂簿ニ登記シ一週間毎ニ之ヲ合計シテ材料掛

- ～報告スヘシ
- 第十六條 材料掛ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ現場受拂原簿ニ登記スヘシ
- 第十七條 現場主任ハ工事ハ工事竣工ノ後諸材料ノ計算ヲナシ殘品ハ返納書用紙ニ品名數量ヲ記入シ現品ト共ニ材料掛ヘ返納スヘシ
- 第十八條 材料掛ハ前條殘品ノ返納書ト共ニ現品ヲ受領シタルトキハ現場受拂原簿及材料受拂原簿ニ登記シテ帳簿仕拂ノ整理ヲナスヘシ各帳簿ニ登記シタル後返納書用紙甲號ハ材料掛ニ止メ置キ乙號ハ材料掛捺印シテ現場主任ニ送付スヘシ
- 第十九條 現場主任ハ前條乙號返納書ヲ受ケタルトキハ諸材料受拂簿ニ返納ノ理由ヲ明記シ帳簿受拂ノ整理ヲナスヘシ

第二十條 現場主任ニ於テ材料ノ交付ヲ受ケタル後該

材料ニ對シ毀損其他ノ事由アツテ使用シカタクトキハ其理由ヲ詳記シ返納ノ手續ヲナスヘシ

第二十一條 現場主任ハ其工事ニ使用スヘキ材料ヲ他ノ現場主任ト互ニ現品交換スルコトヲ許サス

第二十二條 諸材料購買ニ係ル必要ノ書類ハ其寫ヲ各工場ニ備置クモノトス

第二十三條 此規定ニ據リ設クル處ノ諸帳簿及請求書返納書報告書ノ様式ハ別冊ニ定ム但別ニ補助簿ヲ設クルハ妨ケナシ

（別冊略ス）

●水道部被服給與品及貸與品規程並検査員服制

規程 明治三十二年三月十三日
市參事會議決第五千六百九十八號

水道部附屬員ニ給與又ハ貸與スヘキ被服ハ左ノ規程ニ

依リ給貸スヘシ

水道部被服給與品及貸與品規程

第一條 検査員、水廻市水衛守衛給仕ニ給與スヘキ被服

ノ品目左ノ如シ（三十三年四月二日市長決水發第千二百十六號ノニテテテ検査員ヲ検査員「門衛」ヲ「守衛」ト改メ）

但水廻水衛ニハ長靴、守衛ニハ外套、日覆、長靴、短靴給仕ニハ外套、日覆、長靴ヲ支給セス

一 帽

一 冬服

一 夏服

一 外套

一 日覆

一 長靴

一 短靴

第二編 類規

第九類 水道 (第五節 物品支給規)

八百九十

第二條 検査員、水見廻、市水道水衛、守衛給仕ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽章
- 一 被服ノ釦

第三條 給與品ハ現品ヲ以テ支給スヘシ
但長短ノ二靴ハ四月十月ノ二回ニ分チ代料ヲ以テ支給ス

第四條 給與品ノ員數及使用期限ハ左ノ如シ

- 但検査員ノ冬服使用期限ハ上衣十六ヶ月、洋袴八ヶ月トス (三十二年九月十八日市長決水發第千二百十六號ノ改正トス)
- 一 帽子 壹個 十二ヶ月
 - 一 冬服 壹組 八ヶ月 自五月至十月
 - 一 夏服 貳組 四ヶ月 自六月至九月

第二編 類規

第九類 水道 (第五節 物品支給規)

八百九十一

一 外套 壹着 二十四ヶ月

一 日履 壹個 八ヶ月

一 長靴 壹足 十二ヶ月

一 短靴 壹足 六ヶ月

第五條 小使ニ給與スヘキ被服ノ品目左ノ如シ

一 冬法被股引

一 夏法被股引

第六條 定工夫、水道工夫、電話工夫ニ給與スヘキ被服ノ品目左ノ如シ

但定工夫ニハ帽子、外套、頭巾付合羽、水道工夫ニハ帽子、外套ヲ支給セス

一 冬印伴天股引

一 夏印伴天股引

一 帽子

一 外套
一 頭巾付合羽

第七條 第五條第六條ノ給與品ノ員數及使用期限ハ左ノ如シ

- 一 冬法衣股引 壹組 八ヶ月
- 一 夏法衣股引 壹組 四ヶ月
- 一 冬印伴天股引 壹組 八ヶ月
- 一 夏印伴天股引 壹組 四ヶ月
- 一 帽子 壹個 十二ヶ月
- 一 外套 壹着 二十四ヶ月
- 一 頭巾付合羽 壹着 二十四ヶ月

第八條 貸與品ハ轉免死亡ノトキハ之ヲ返納スヘシ又使用期限ノ了ラサル給與品モ亦同シ但代料ヲ以テ支給ノモノハ使用殘期ニ相當スル金

額ヲ返納スヘシ

第九條 貸與品又ハ使用期限ノ了ラサル給與品ヲ毀損紛失シ代品ヲ交付スル場合ニ於テ過失怠慢ニ出テタルモノハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

検査員服制規程

帽子 地質黒羅紗海軍形黒横線（八分）一條ヲ付ス

前章 櫻形ノ巾ニ市ノ印ヲ付ス（經一寸）

冬服 地質黒羅紗脊廣ニシテ手首ニ黒三分ノ線二條ヲ付ス袴ハ縫目ニ黒五分ノ堅線一條ヲ付ス釦ハ前章ニ同シ（經六分）

夏服 地質紺セルニシテ仕立冬服ニ同シ手首ニ黒三分ノ線二條及袴黒（五分）ノ堅線一條ヲ付ス（三十三日五十九日ヲ以テ本項改正）

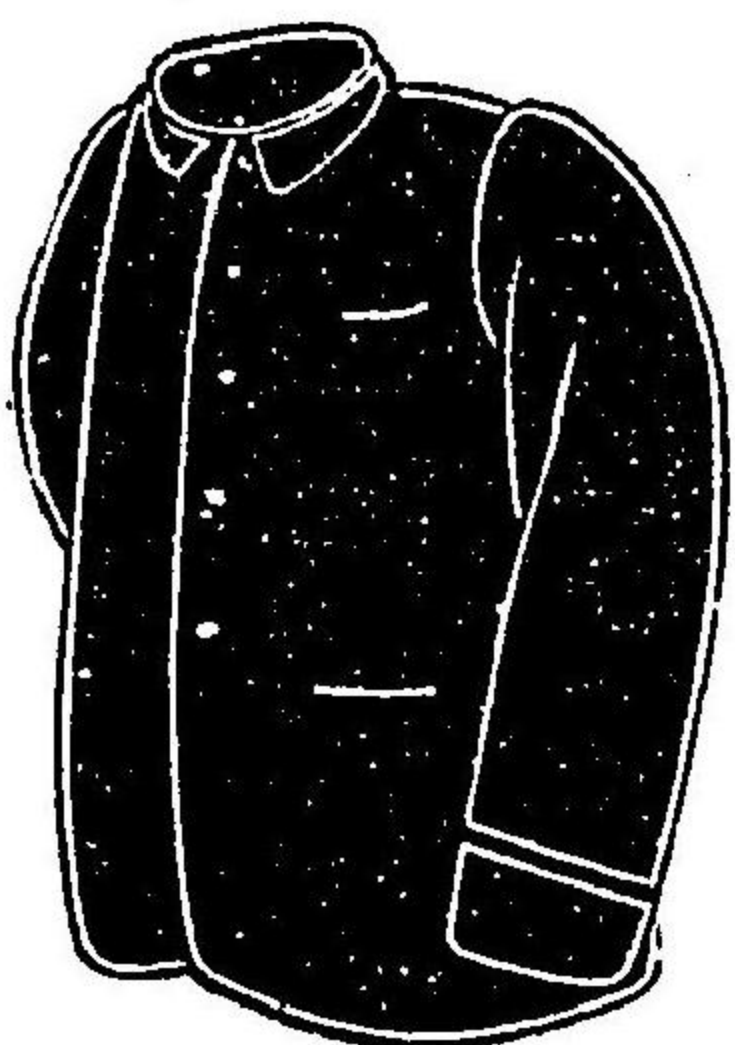
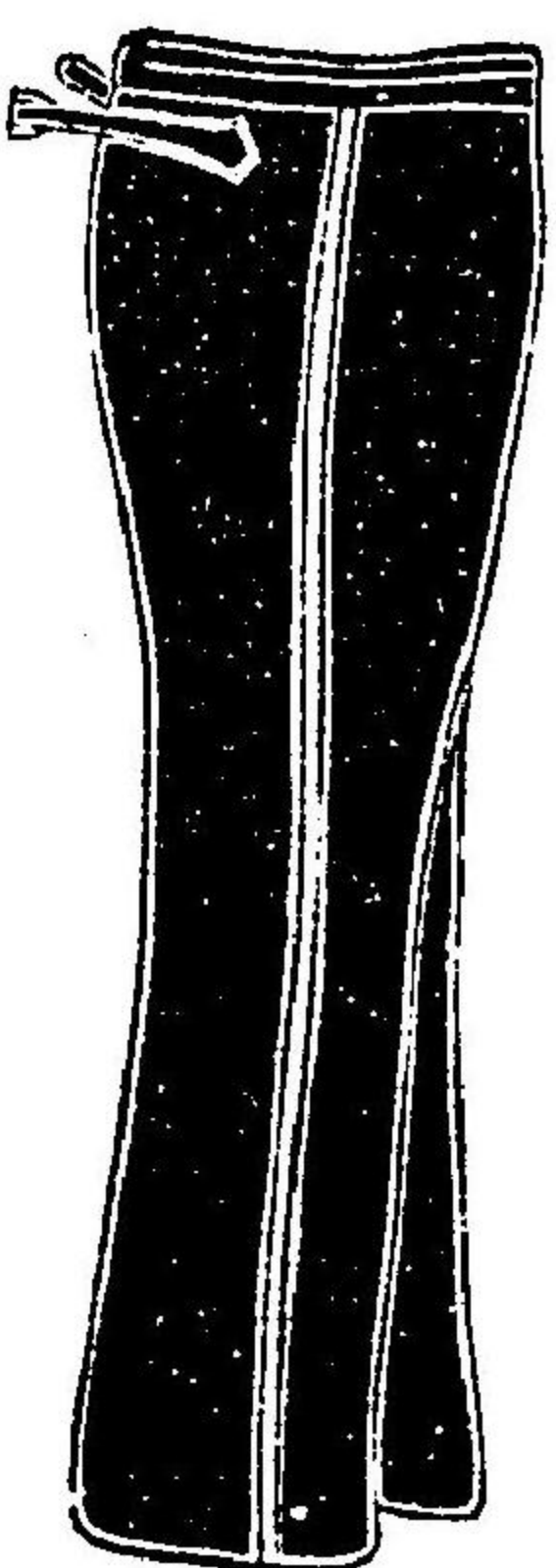
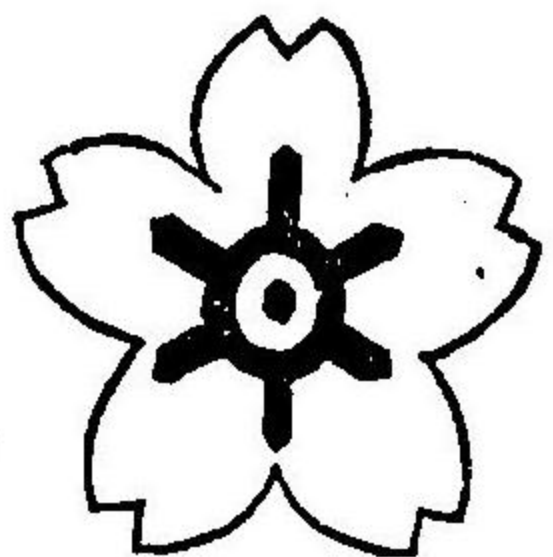
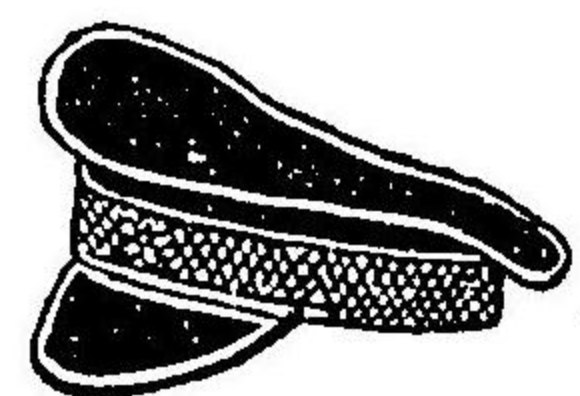
外套 地質質黒羅紗ニシテ兩前帶及頭巾付釦ハ服ニ同

第二編 類規

第九類 水道（第五節 物品位給與）

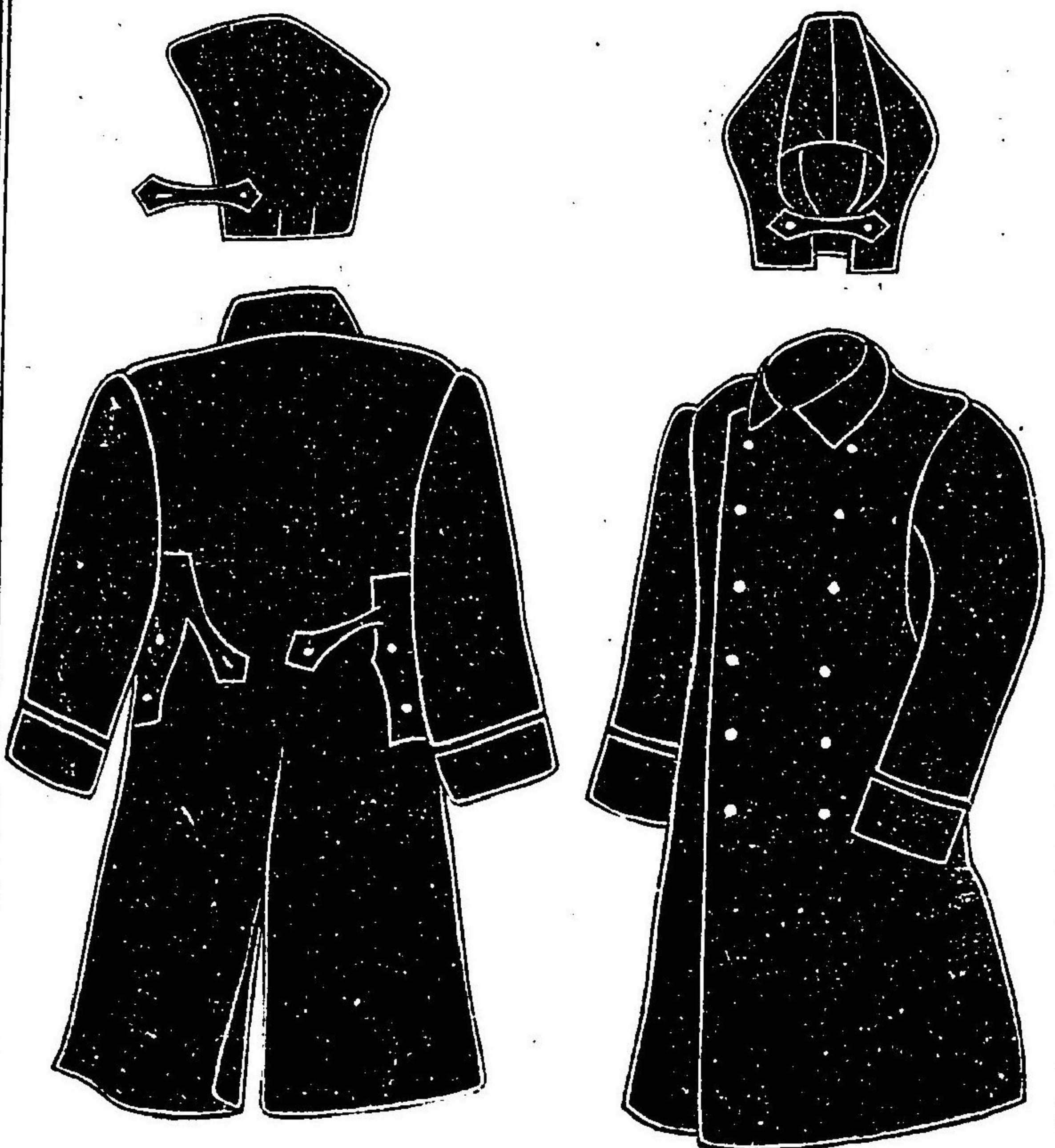
水道検査員服制

シ



第二編 類規

第九類 水道（第五節 物品位給與）



●水道改良事業用物品購入種目並專業者請負方

明治二十七年五月二十八日
市會議決會甲第一號

- 一 水道改良事業ニ屬スル物品購入ハ左ノ十種ニ限リ場合ニ依リ特ニ其專業者ヨリ積書ヲ徵シ豫算以内ニシテ相當ト認ムルトキハ請負ヲ命スルコトヲ得
- 一 練瓦
- 一 セメント
- 一 粘土
- 一 砂利
- 一 砂
- 一 石材
- 一 割栗石
- 一 生石灰
- 一 鉛
- 一 麻

●水道用鑄鐵管購買示方書（水改第二十一號）

明治二十五年五月二十日市會議決（甲號）

同 年 同 月 二 十 三 日 市 會 議 決 （ 乙 號 ）

本市水道用鑄鐵管ハ別冊購買示方書ニ依リ甲或外國購買ノ契約ヲ爲スモノトス

甲 日本帝國東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一章 總 則

第一條 東京市參事會ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ

購買スルニ付請負ヲ望ム者ハ本示方書ニ據リ納付ノ積ヲ以テ代價積書ヲ差出スヘシ

第二條 市參事會ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケ積書價額ノ高低ニ拘ハラズ本市ニ最モ利益アリト認ムル製造人ニ請負ヲ命スルモノトス

但市參事會ノ都合ニヨリ請負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條 請負ヲ命セラレタル請負人ハ第五條ノ代理人ト連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第四條 請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十ニ對スル公債證書外國公債又ハ市參事會ノ指定スル銀行或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預金證書ヲ差出スヘシ

第五條 請負人ハ東京或ハ横濱ニ於テ市參事會カ相當

ト認ムル代理人ヲ置キ市參事會ニ對スル請負人ノ總テノ責任ヲ負ハシムヘシ

第六條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部或ハ其一部ヲ下請負セシメ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第七條 請負人市參事會ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ遲延シタルトキハ市參事會ハ違約損害ノ賠償トシテ遲延日數每一日ニ付其遲延シタル物品代價ノ千分ノ五宛ヲ徵收ス

第八條 請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フトキハ市參事會ハ第四條ノ保證金ヲ沒收ス

第九條 請負人示方書ノ條項ニ背戻シ到底請負ヲ完結スルコト能ハスト認ムルトキハ市參事會ハ請負契約ヲ解キ第四條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ

但此場合ニ於テ市參事會カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セシム

第十條 本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面ノ解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章 鑄鐵管數量及代價

第十一條 購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬スル材料表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス
但實際ノ需用量ハ多少増減アルヘシ

第十二條 鑄鐵管ハ別紙略圖ニ示ス如キ形狀ノ挿口及承口ヲ有スヘキモノトス

第十三條 各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ東京市佃島埋地ニ運送陸揚受授ノ後ニ市參事會カ仕拂フヘキ重量每壹噸代價請負人本圖ノ通トス

第十四條 異形管即チ彎管丁字管突緣管等ニ對スル重量每壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ
但其數量ハ大約鑄鐵管全量ニ對シ普通水道工事ニ要スル割合トス

第三章 鐵質及鑄造法

第十五條 市參事會ハ製造人ニ各有ノ製造法ヲ用フルノ便宜ヲ得セシメンカ爲メニ特ニ左ノ諸項ヲ一定セス故ニ代價積書ニ附シテ各項トモ詳細ノ調書ヲ差出スヘシ

- 一 用鐵ノ抗張強抗橫斷強及撓度
- 二 印籠繼管ノ承口及挿口ノ寸法
- 但第十二條ニ掲クル形狀ヲ有スルモノ
- 三 各鐵管ノ有効長
- 四 各鐵管ノ厚

五 各鐵管壹本ノ豫定重量

第十六條 用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質強韌ニシテ容易ニ鑄ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第十七條 鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐毎ニ追テ指定スヘキ數ノ試驗片ヲ鑄造シ左ノ試驗ノ用ニ供ス

- 一 抗張強試驗
- 二 抗橫斷強及撓度試驗
- 三 分析試驗

第十八條 鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑長挿口及承口ノ形狀ヲ有シ断面ハ異圓ニシテ内外面トモ同心圓タルヘシ

第十九條 總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製

堅立模型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スル
コトヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後
ニ旋盤ヲ以テ之ヲ切斷スルモノトス

第二十條 鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサ
ラシメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシ
ムヘシ

第二十一條 鑄鐵管ハ砂竅氣泡罅裂其他鑄造上ノ缺點
ナク内外面トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其
他ノモノヲ以テ缺點ヲ補填スヘカラス

第二十二條 各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ
名稱、東京市水道ナル文字、年號、及番號ヲ少クトモ一分
ノ高サニ鑄出スヘシ

第二十三條 鑄鐵管ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附着シ
タル土砂塵埃等ヲ除去シ第二十五條ノ検査ヲ經タル

後之ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ煖メ主任技師ノ認可ス
ル同熱度ノ防銹液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取
出シ乾燥セシムヘシ

但其被包面ハ黒色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ附着シ
テ容易ニ剝脱シ能ハサルモノタルヘシ

鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ催腐劑ヲ使用ス
ルコトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能
ハサルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗
リテ之ヲ保存スヘシ

第四章 検査

第二十四條 市參事會ハ製造中終始一人若クハ數人ノ
代理者ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑査シ鐵質ノ良否強弱
其他各種ノ試験ヲ監督セシムヘシ
前項ノ試験ハ總テ市參事會ノ代理者カ適當ト認ムル

所ノ方法ニヨリ代理者ノ指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十五條 鑄鐵管ハ内外ノ兩面ヲ検査シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且ツ鈍ヲ以テ之ヲ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ検査スヘシ

第二十六條 總テ鑄鐵管ハ拾五氣壓ノ水壓試験ヲ爲シ試験中ハ絶ヘス重量大約六百目ノ鐵錘ヲ以テ管ノ各部ヲ打蕪ス

但自然流下用ノ管ハ十氣壓ヲ以テ試験ス

第二十七條 前條ノ試験ヲ了シタル各管ハ白ペンキヲ以テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十八條 左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ擯却ス

一 管ノ重量規定ヨリ百分ノ以上過少ナルモノ

二 管ノ厚サ同一ナラス其薄部規定ヨリノ以上薄キ

モノ

三 管ノ内徑規定ヨリノ以上過少ナルモノ

四 管ノ承口ノ内徑ノ以上過少ナルモノ若クハ以上過大ナルモノ

五 管ノ挿口ノ外徑ノ以上過大ナルモノ若クハ以上過少ナルモノ

六 塗料ノ剝脱シタルモノ及銹蝕ヲ生シタルモノ

七 其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十九條 試験ヲ爲スニ足ラスト認めタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ擯却ス

第三十條 東京市佃島埋地へ鑄鐵管到着ノ後更ニ市參事會ノ費用ヲ以テ試験ヲ施行ス此場合ニ於テ第二十八條ニ規定セル諸項ニ該當スト認めタル鑄鐵管ハ市參事會代理人ノ承認ヲ經タルモノト雖モ之ヲ擯却ス

第三十一條 損却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ破壊スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文字ヲ削除シ且同番號ノ鐵管ヲ製造スヘカラサルモノトス

第五章 受授及仕拂

第三十二條 鑄鐵管ノ納付ハ市參事會ノ指定スル仕譯書ニ從ヒ請負契約濟ノ日ヨリ起算シ百二十日以内ニ之ヲ始メ爾後毎二ヶ月ニ全請負額十分ノ一以上ヲ納付シ滿二年以内ニ請負全額ヲ納付スヘシ

第三十三條 請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類内徑番號及重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各二通宛ヲ差出スヘシ

第三十四條 諸鐵管代價ハ東京市佃島埋地ニ於テ受授ノ際秤量シタル重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂

フヘシ

一各鐵管ノ重量規定ヨリ 以內ノ過不足アルトキ

ハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ

二各鐵管重量ノ過百分 一ヲ超過スルトキハ其超過

重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲ササルヘシ

三前二項ノ規定ニヨリテ時時鐵管代價ノ仕拂ヲ爲ス

ヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價仕拂

ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル

場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハ

サルヘシ

第三十五條 受授以前ニ破碎シタル管ハ損却スルコト

勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキ

ハ用途アル分ニ限り之ヲ購買スルコトアルヘシ

第三十六條 損却セラレタル鑄造品ハ其損却ノ理由何

タルヲ問ハス請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ引取ルヘキモノトス

第三十七條 鑄鐵管ハ東京市佃島埋地ニ於テ主任技師カ検査及試験ヲ爲シタル後市參事會ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス

第三十八條 代價仕拂ハ物品受授濟ノ後十五日以内ニ物品目錄ニ照シテ代價ヲ計算シ當日ノ金貨相場ニ據リ日本通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

乙 東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一章 總則

第一條 東京市參事會ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ購買スルニ付請負ヲ望ム者ハ本示方書ニ據リ製造納付ノ積ヲ以テ製造ニ要スル諸設備ノ計書及圖面相添代價積書ヲ差出スヘシ

第二條 市參事會ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケ積書價額ノ高低ニ拘ハラズ本市ニ最モ利益アリト認ムル製造人ニ請負ヲ命スルモノトス

但市參事會ノ都合ニヨリ受負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條 請負人ハ冶金學士及機械學士各一名以上ヲ製造ニ從事セシムルヲ要ス

第四條 請負ヲ命セラレタル請負人ハ保證人連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第五條 請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十ニ對スル公債證書又ハ市參事會ノ指定スル銀行或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預金證書ヲ差出スヘシ
第六條 請負人ハ請負契約後 ヶ月以内ニ鐵管鑄造ニ着手スヘシ

第七條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部或ハ其一部ヲ下請負セシメ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第八條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ遅延シタルトキハ市參事會ハ違約損害ノ賠償トシテ遅延日數毎一日ニ付其遅延シタル物品代價ノ千分ノ五宛ヲ徵收ス

第九條 請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フトキハ市參事會ハ第五條ノ保證金ヲ沒收ス

第十條 請負人示方書ノ條項ニ背戻シ到底請負ヲ完結スルコト能ハスト認ムルトキハ市參事會ハ請負契約ヲ解キ第五條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ
但此場合ニ於テ市參事會カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セシム

第十一條 本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面ノ解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章 鑄鐵管數量及代價

第十二條 購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬スル材料表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス

但實際ノ需用量ハ多少増減アルヘシ

第十三條 各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ本市内ニ於テ時時指定スヘキ河岸物揚場ニ運送陸揚受授ノ後ニ市參事會カ仕拂フヘキ重量每壹噸(一千キログラム)ノ代價トス

第十四條 異形管即チ彎管丁字管突緣管等ニ對スル重量每壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ
但其數量ハ大約鑄鐵管全量ニ對シ普通水道工事ニ

要スル割合トス

第三章 鐵質及鑄造法

第十五條 用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質強靱ニシテ容易ニ鑄ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第十六條 鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐毎ニ追テ指定スヘキ數ノ試驗片ヲ鑄造シ左ノ試驗用ニ供スヘシ

一 抗張強試驗

壹平方ミリメートルニ付拾四キログラム以上ノ強度ヲ要ス

二 抗橫斷強試驗

長六百五拾ミリメートル幅貳拾五ミリメートル高

五拾ミリメートルノ試驗片ヲ六百ミリメートルノ距離ニ於ル二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シテ其重量九百七拾キログラム以上ニ耐ヘ且中央ニ於テ六ミリメートル以上ノ撓度ヲ示スヘキモノトス

三分析試驗

第十七條 鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑長厚挿口及承口ノ形狀ヲ有シ斷面ハ真圓ニシテ内外面トモ同心圓タルヘシ

第十八條 總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製堅立摸型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルコトヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤ヲ以テ之ヲ切斷スルモノトス

第十九條 鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサラシメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシ

ムヘシ

第二十條 鑄鐵管ハ砂竅、氣泡、罅裂其他鑄造上ノ缺點ナク内外面トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其他ノモノヲ以テ缺點ヲ補填スヘカラス

第二十一條 各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ名稱、東京市水道ナル文字、年號、及番號ヲ少クトモ一分ノ高サニ鑄出スヘシ

第二十二條 鑄鐵管ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附着シタル土砂塵埃等ヲ除去シ第二十四條ノ検査ヲ經タル後之ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ煖メ主任技師ノ認可スル同熱度ノ防銹液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥セシムヘシ

但其被包面ハ黒色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ附着シテ容易ニ剝脱シ能ハサルモノトス

鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ催腐劑ヲ使用スルコトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗リテ之ヲ保存スヘシ

第四章 検査

第二十三條 市參事會ハ製造中終始主任技師若クハ其代理人ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑査シ鐵質ノ良否強弱其他各種ノ試験ヲ監督セシムヘシ

前項ノ試験ハ總テ主任技師カ適當ト認ムル所ノ方法ニヨリ其指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十四條 鑄鐵管ハ内外ノ両面ヲ検査シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且鍍ヲ以テ之ヲ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ検査スヘシ

第二十五條 總テ鑄鐵管ハ拾五氣壓ノ水壓試驗ヲ爲シ
 試驗中ハ絶ヘス重量大約一百目ノ鐵鏈ヲ以テ管ノ各
 部ヲ打撃ス

但自然流下用ノ管ハ拾氣壓ヲ以テ試驗ス

第二十六條 前條ノ試驗ヲ了シタル各管ハ白メンキヲ
 以テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十七條 左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ擯却ス

一管ノ重量規定ヨリ百分ノ 以上過少ナルモノ

二管ノ厚サ同一ナラス其海部規定ヨリ 以上薄キ
 モノ

三管ノ内徑規定ヨリ 以上過少ナルモノ

四管ノ承口ノ内徑 以上過少ナルモノ若クハ

以上過大ナルモノ

五管ノ挿口ノ外徑 以上過大ナルモノ若クハ

以上過少ナルモノ

六塗料ノ剝脱シタルモノ及銹蝕ヲ生シタルモノ

七其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十八條 試驗ヲ爲スニ足ラスト認めタル鑄鐵管ハ
 直ニ之ヲ擯却ス

第二十九條 前數條ニ規定セル試験及検査ノ際主任技
 師或ハ其代理人カ擯却セサリシ諸鐵管ト雖モ最後ノ
 受授以前ニ不合格品タルコトヲ發見スルコトアレハ
 市參事會ハ尙之ヲ擯却ス

第三十條 擯却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以
 テ直ニ之ヲ破壊スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文
 字ヲ削除シ且同番號ノ鐵管ヲ製造スヘカラサルモノ
 トス

第五章 受授及仕拂

第三十一條 鑄鐵管納付期限ハ製造者手ノ日ヨリ起算シ毎二ヶ月ニ貳千噸以上ヲ納付スヘシ

第三十二條 請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類内徑番號及重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各貳通宛ヲ差出スヘシ

第三十三條 諸鐵管代價ハ其重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂フヘシ

一 各鐵管ノ重量規定ヨリ百分ノ 以內ノ過不足アルトキハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ

二 各鐵管重量ノ過百分 ヲ超過スルトキハ其超過重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲ササルヘシ

三 前二項ノ規定ニヨリテ時時鐵管代價ノ仕拂ヲ爲スヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價仕拂ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル

場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハサルヘシ

第三十四條 受授以前ニ破碎シタル管ハ撤却スルコト勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキハ用途アル分ニ限り之ヲ購買スルコトアルヘシ

第三十五條 鑄鐵管ハ市參事會ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス

第三十六條 代價支拂ハ物品受授濟ノ價格金五萬圓ニ達スル毎ニ之ヲ仕拂フヘシ

● 水道用具購買示方書準用方明治二十五年十一月七日市會議決水改第二十六號
水道用具ノ内阻水弁、水量水器、安全瓣、消火栓、共用栓、水留栓、唧筒機等ニシテ鑄鐵管購買手續ニ類セル購買契約ヲ爲セモノハ水道用鑄鐵管購買示方書ニ準ス

● 水道用異形管採用方明治三十年三月二日市會議決水改第二百九號

本市水道用異形管中彎管及大Y字管ヲ試驗スルニハ新
 ニ水壓試驗機ヲ調製セサルヘカラサルニヨリ其費用尠
 少ナラス且非常ノ手數ヲ要スルヲ以テ實用上差支ナシ
 ト認定スルモノハ水壓試驗ヲ施行セス又重大ニシテ備
 附機械ヲ以テ重量検査ヲ施行シ難キモノハ計算重量ヲ
 以テ採用スルモノトス

●非常線内携帶鑑札取扱心得

明治三十四年三月十九日水道部長通達
 水發第二百十八號同部各課掛山原所工場給水場宛

- 一非常線内携帶鑑札ハ庶務課庶務掛ヨリ各掛各工場及
 各出張所月島試驗所ニ配付スルモノトス
- 一前項ノ配付ヲ受ケタル各掛各工場及各出張所ニ於テ
 ハ其詰員ニ交付シタルトキハ其都度交付簿ニ職氏名
 及其鑑札番號ヲ明記シ置クヲ要ス
- 一毀損又ハ紛失等ノ場合ハ速ニ水道部ニ届出ヘシ

一職工定工夫等ハ其掛工場ニ於テ定員ヲ設ケ常ニ携帶
 セシメ他ハ非常ノ場合特ニ貸附スルモノトス

●出火ノ際出張員所在地表示ノ爲メ提灯掲揚携

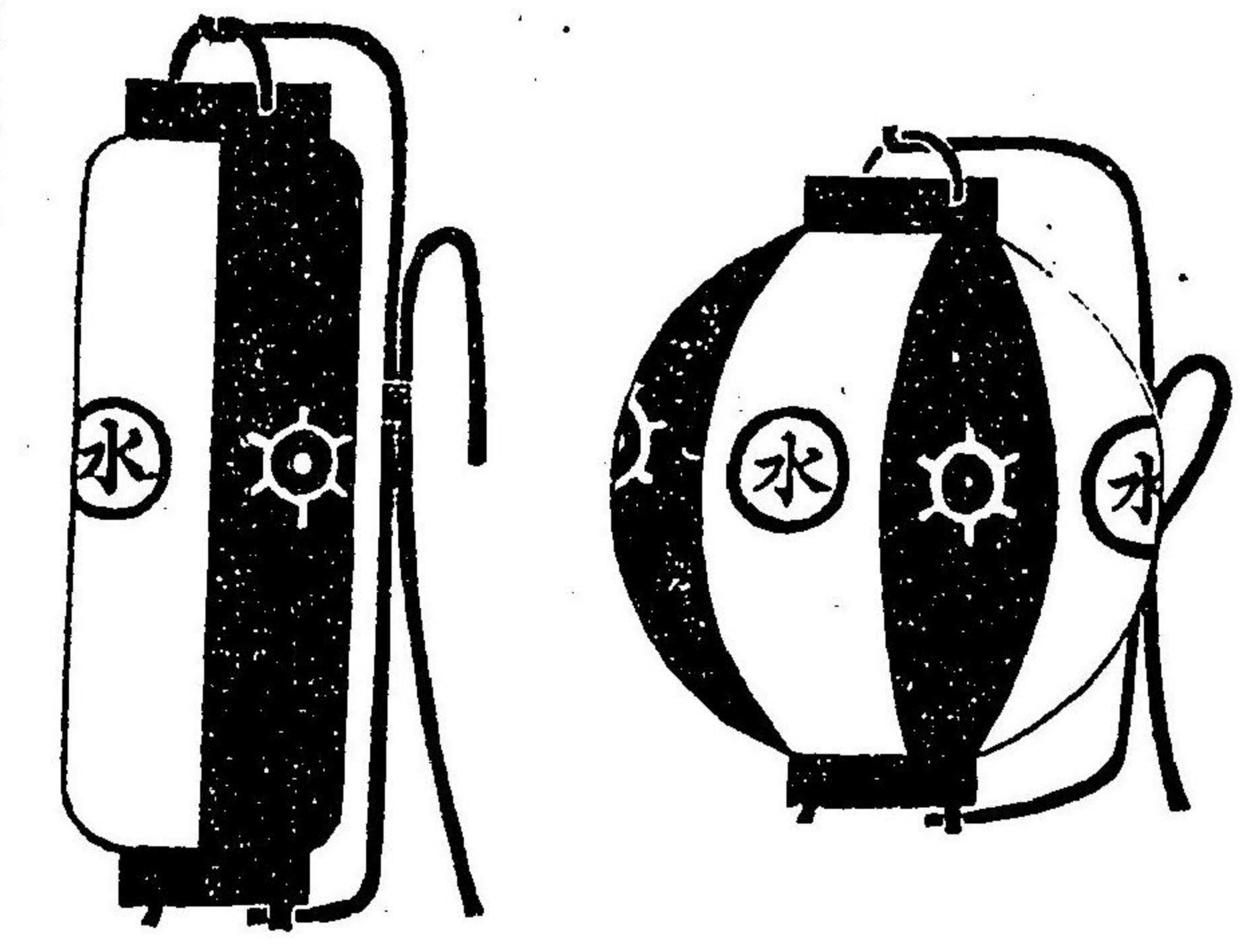
帶方並其雛形明治三十二年九月二十二日
 市發事會議決第千四百八十三號

市内出火ノトキハ消火栓使用ニ關シテハ水道部ニ於テ
 モ消防署ト俱ニ之ニ從事シ又防火配水速度ニ於テモ一
 層注意ヲ要スハキ次第ニ付出火ノ際ハ特ニ消防署ハ本
 部ニ急報シ直チニ部員出張應急ノ處置ヲナサシメ又現
 場ニ於テハ消防署其他ニ對シ協議ヲ要スルコトアルモ
 消防署ノ如ク其所在地ノ表示ナキヲ以テ混雜ノ場所ニ
 於テハ容易ニ應スルコト能ハサル爲メ往々不都合ヲ生
 シ候ニ付自今左ノ雛形ノ通部員所在地ハ夜ハ提灯ヲ建
 設シ晝間ハ旗ヲ用ヒ又消防線内ニ從事スル職員等ニハ
 夜ハ提灯ヲ携帶セシムルモノトス

第二編 類規

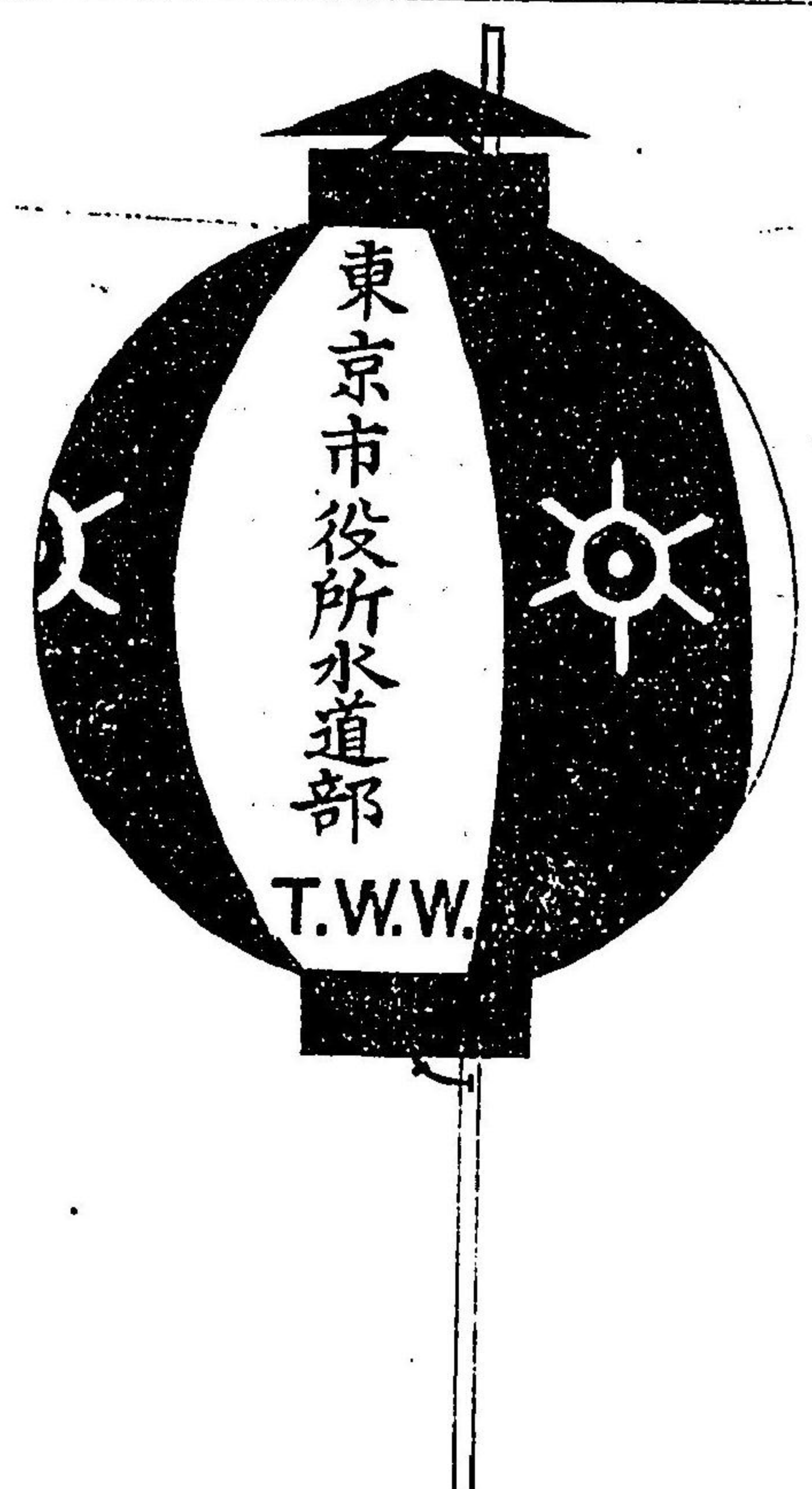
第九類 水道（第五節 物品並給與）

但決議ノ上ハ警視廳消防署ニ通知シ別ニ告示ハ爲サ
サルモノトス



第二編 類規

第九類 水道（第五節 物品並給與）





● 水道土木工事中發掘ノ人骨埋葬費用支辨方

明治三十一年十二月二十一日助役通牒
内四乙第四百六十五號ノ六區長宛

水道又ハ土木工事中發掘シタル人骨ニシテ警察署ヨリ引繼ヲ受ケ之カ埋葬費用ヲ救助費ヨリ仕拂タル向モ有之候處右費用ハ工事所屬ノ費用ヨリ支辨スヘキモノニシテ區役所ニ於テ取扱ヲ要セサル義ニ付爲念此段及通牒候也

● 職工工夫時間外勤務ニ對シ給料支給方

明治三十二年二月十六日
市參事會議決第二千六百九號

水道改良工事ニ使役スル職工及工夫ハ從來一日勤務時間ヲ十時間ト定メ其時間外勤務セシ場合ハ時間ノ長短ニ關セス一時間ニ付日給額百分ノ十五ノ割合ヲ以テ増給シ來リ居候處右ハ工事上ノ都合ニ依リ勤務時間外早出居残り等少許ノ時間ト數時間ニ涉リ若クハ徹夜等爲

セシモノト同一ノ割合ヲ以テ増給スルハ穩當ナラサルニ付自今左記ノ割合ニ改正支給スルモノトス
 進而鉛管敷設工事ニ使役スル職工工夫モ本文ニ準シ支給スルモノトス

出勤時刻前早出三時間ハ
 退應時刻ヨリ居残り三時間ハ
日給額百分ノ十ヲ増給ス(每一時間)

同上居残り三時間以後午後十二時迄ハ
日給額百分ノ十二ヲ増給ス(同上)

同上午後十二時以後ハ
日給額百分ノ十五ヲ増給ス(同上)

但每一日一時間未滿ノ端數(各増給額毎ニ給)ハ切捨トシ早出三時間以前ノモノ及午後十二時以後ヨリ出勤時刻迄繼續勤務ノモノハ總テ百分ノ十五ノ割合ニ依リ支給ス

● 水栓番時間外勤務ニ對シ給料支給方

明治三十三年二月二十日
 市參事會議決第六百六號

客年二月十六日第二六〇九號議決別紙參照ニ依リ鉛管

敷設工事ニ使役スル職工工夫ニ對シ時間外勤務給料支給シ來リタル處其後給水上及鉛管敷設工事上必要ニ依リ水栓番ナルモノヲ置キタルニ就テハ右水栓番ニモ職工工夫同一ノ割合ヲ以テ時間外勤務給料ヲ支給セントス

● 水道部宿直員検査員及水栓番人宿直賄數

明治三十三年四月十三日
 市參事會議決第三千二百八十六號

水道部宿直員賄ハ是迄二食ツツ給シ來リ候處構内廣濶ニシテ夥多ノ給水材料堆積有之旁夜警ノ爲メ徹夜致候ニ就テハ爾後三食分ツツ充行フモノトス
 又市内出火ノ際其他非常ニ際シ消火栓使用並ニ配水上臨機ノ處分方トシテ現場ニ出張セシムル爲メ宿直セシムル水道検査員水栓番人モ亦是迄二食賄ノ處夜中出張ノ際ニ限リ三食賄ヲ充行フモノトス